

孔子学院

CONFUCIUS INSTITUTE

中日版 日中版
№2 2023

搗茶香 客情浓
搗り茶の香り、客家の情熱

孔子学院

孔子学院

主管：中华人民共和国教育部
主办：中国国际中文教育基金会

主管：中華人民共和國教育部
企画・編集：中國國際中文教育基金會

编辑出版：《孔子学院》编辑部
协 办：上海外国语大学
日语刊合作伙伴：日本早稻田大学孔子学院
总 编 辑：赵灵山 李岩松
副总编辑：郁云峰 衣永刚
主 编：张雪梅
副 主 编：赵 裴 张逸岗
编 辑：傅 英 余玲华 黄 蕾
主 审：高 洁 江正殷
审 校：张丽丽 于 帆 王洋帆

編集出版：『孔子学院』編集部
共同編集：上海外國語大學
日中版編集協力パートナー：早稲田大學孔子學院
総編集長：趙靈山 李岩松
副総編集長：郁雲峰 衣永剛
編 集 長：張雪梅
副編集長：趙 裴 張逸崗
編 集：傅 英 余玲華 黃 蕾
主 審：高 潔 江正殷
審 校：張麗麗 于 帆 王洋帆

美术设计：陈 颖 朱浩晔 王艺潼
排 版：上海礼月文化传媒有限公司
印 刷：上海叶大印务发展有限公司
国际连续出版号：ISSN1674-9693
国内统一刊号：CN11-5963/C
邮发代号：80-752

デザイン：陳 穎 朱浩曄 王藝潼
組 版：上海禮月文化傳媒有限公司
印 刷：上海葉大印務發展有限公司
國際標準逐次刊行物番號：ISSN1674-9693
中國國內統一發行番號：CN11-5963/C
郵便登錄番號：80-752

定 价：RMB 16 / JPY 550
编辑部地址：北京市海淀区学院路 15 号
邮政编码：100083
编辑部电话：0086-10-63240631
网 站：www.ci.cn
上海编辑部地址：上海市虹口区大连西路 550 号
电 话：0086-21-35377068
投稿邮箱：ci.journal@ci.cn
刊名题字：欧阳中石
封面供图：刘军伟

定 価：16 元 / 550 円
編集部住所：北京市海淀区学院路 15 号
郵便番号：100083
電話番号：0086-10-63240631
ホームページ：www.ci.cn
上海編集部住所：上海市虹口区大連西路 550 号
電話番号：0086-21-35377068
メールアドレス：ci.journal@ci.cn
中国語題字（表紙）：歐陽中石
写 真：劉軍偉



目录 / 目録

№2 2023

文化视窗 文化ウインドウ

- 4 八大山人
——一位以古典艺术贯通现代的大画家
八大山人
——古典と現代を貫く大画家
作者：施之昊 施之昊
- 10 揭开海昏侯国的神秘面纱
——从发掘现场到博物馆的汉墓遗珍
海昏侯国の謎を解き明かす
——漢墓の遺珍、発掘現場から博物館へ
作者：黄雪寅 黄雪寅
- 18 宋应星与《天工开物》
宋応星と『天工開物』
作者：崔高浩 崔高浩
- 26 古老而独特的东河戏
古い歴史を持つ独特な「東河戯」
作者：吴家平 吳家平



汉语学习 中国語学習

- 32 汉语的教与学
中国語の「教える」と「学ぶ」
南昌大学组稿 南昌大学編集
- 38 不识庐山真面目
不識廬山真面目（廬山の真の姿を知らず）
作者：崔高浩 崔高浩
- 42 二十四节气之惊蛰和春分
二十四節気
作者：雪漫 雪漫
- 46 三清山——寻觅仙人足迹
三清山へ、仙人の跡を追い求めて
作者：杨怡 楊怡



当代中国 当代中国

- 52 从“洋景漂”到“洋景归”
留学生から移住者へ
景德镇陶瓷大学组稿 景德镇陶瓷大学編集

- 60 百年雅溪 百年客家
雅溪悠久の流れ、客家いにしへの旅
作者：刘慧玲 劉慧玲

- 66 中国传统书画装裱工艺中的修复技术
——以张名倬山水画装裱修复为例
中国の伝統的書画表装工芸における修復技術
——張名倬の山水画の表装修復を例として
作者：柳东溶 柳東溶



孔院链接 孔院リンク

- 72 一分耕耘，一分收获
——一位本土教师的教学自传
努力は必ず報われる
——現地で教鞭をとる一人の中国語教師の歩んできた道
作者：安以轩 安以軒
- 76 无问东西 全球一家
——对话印尼和西班牙青年文化使者
「洋の東西は問わず、地球は一家」
——インドネシア、スペインの青年文化大使にお話しを聞く
作者：张琚竹 チュティ・ワランダリ・ビン・アフマ 光洁 ルシア・ガルシア・ディアス



八大山人

——一位以古典艺术
贯通现代的大画家

八大山人

——古典と現代を貫く大画家

作者：施之昊 施之昊
翻译：三好雅彦 三好雅彦

八大山人大名鼎鼎，他的原名朱耷，人们反而陌生了。他的艺术成就属于中国，同时也属于世界。中国各大博物馆珍藏着他的书画作品，欧美的大型博物馆里也有他的杰作。人们对他的艺术风格特别倾心，原因是他的作品既是古代的，也是贯通现代的。

八大山人、その名前は非常に高い。彼の本名は朱耷というが、その名前はあまり知られていない。彼の出身地は江西であり、中国でもあり、同時に世界でもある。中国の多くの大きな博物館に彼の書画の作品が所蔵され、欧米の大きな博物館にも彼の傑作がある。人々は彼の芸術のスタイルに特に魅了される。それは彼の作品が古典的でもあり、現代的でもあるからである。

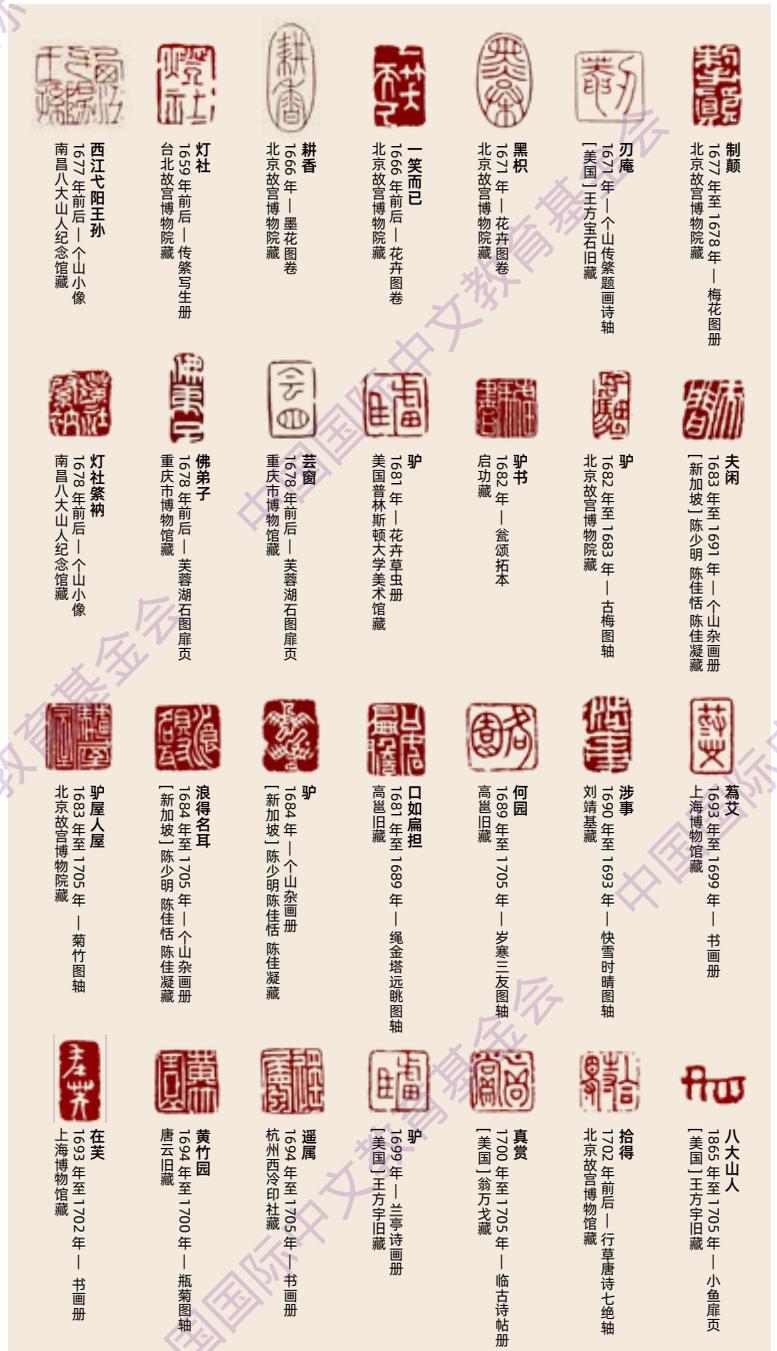


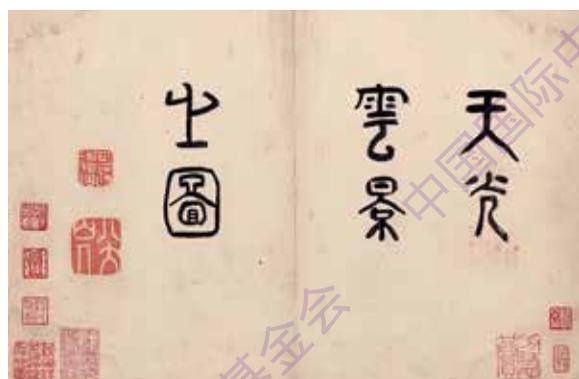
传奇的身世和复杂的名号

数奇な境遇と複雑な名前

朱耷（1626—1705），是明代的皇孙公子，他的祖上是明太祖朱元璋的第九子、后来驻节江西的宁王朱权，世代居住在江西。朱耷生于南昌弋阳王府，他的一枚印章“西江弋阳王孙”，最能说明他显赫的家世。关于“朱耷”这个名字，有人说他生下来就耳朵大，于是有了“聋子”的小名；还有人说“耷”是“驴”字的俗写。单单这个名字就耐人寻味，而他“八大山人”的签名更是引人遐想。一种普遍的说法是这个签名像“笑之”或“哭之”。1644年清军入关，正是改朝换代之际，朱耷只得逃离南昌。作为明代宗室，他当时处境十分危险，不得不“削发为僧”，这一年他23岁（1648年）。随后，清军包围南昌，很多明代王室成员被诛杀。

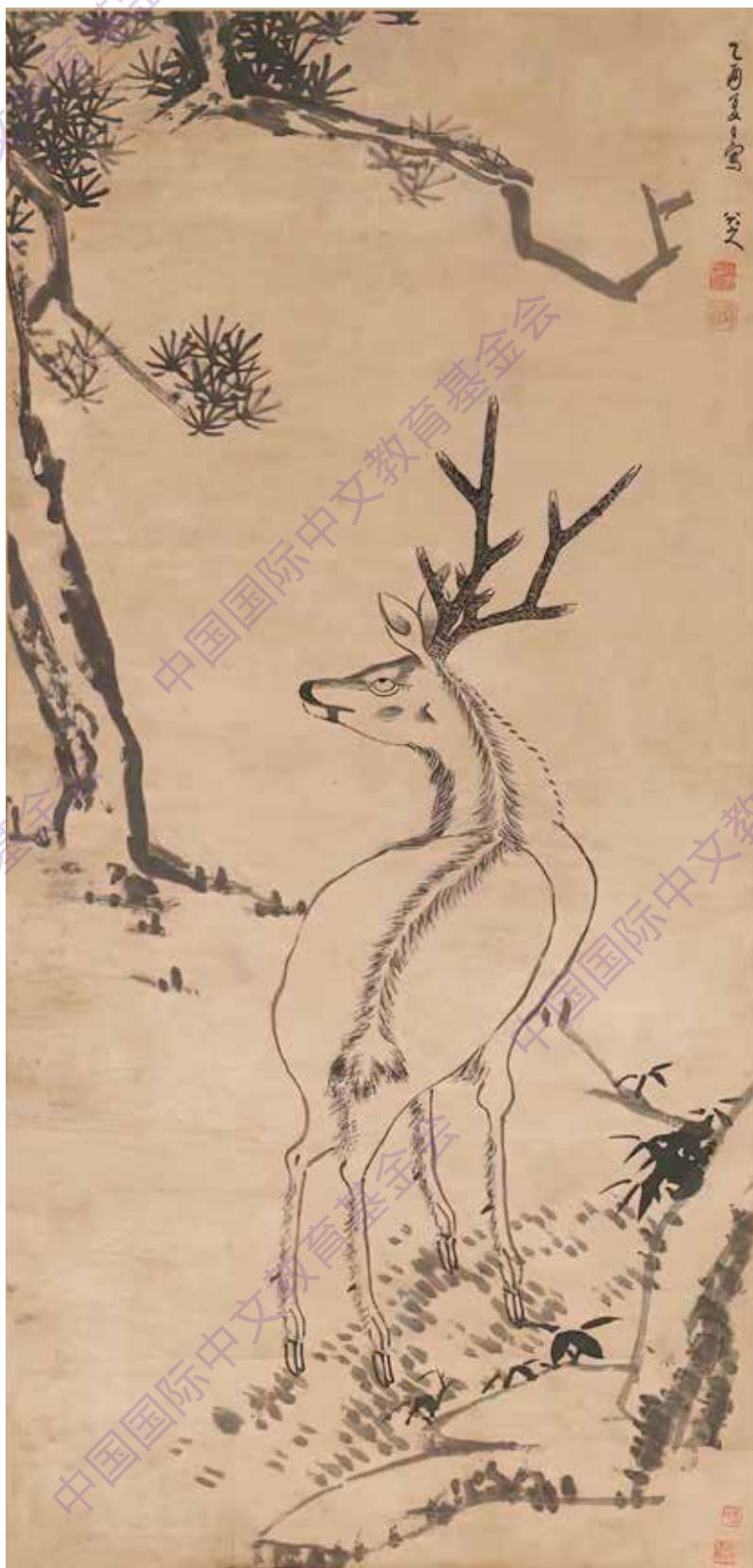
朱耷（1626~1705年）は明代の皇帝の子孫である。先祖は明の太祖・朱元璋の九男、後に江西に駐在する寧王朱権で、代々、江西に居留した。朱耷は南昌弋陽王府に生まれ、彼の印鑑である「西江弋陽王孫」は、彼の輝かしい家柄を端的に示している。朱耷という名前については、生まれつき耳が大きいことから、「聋子」という幼名をつけられたという人もいれば、「耷」が「驢（ロバ）」の俗字だという人もいる。その名前だけでも意味深いが、彼の「八大山人」というサインは更に人の思いをかき立てる。一般にこのサインは「笑う」あるいは「泣く」ようなものだとされる。1644年、清軍が山海関から入り、今まさに王朝が変わろうというとき、朱耷は南昌から逃げ出さなければならなかった。明代の宗家の一族として、彼の当時の境遇は非常に危険なもので、「剃髪して僧にならざるを得なかった」。その年、彼は23歳であった（1648年）。その後、清軍は南昌を包囲し、明代の王室の人たちが数多く誅殺された。





需要说明的是，朱耷 56 岁在南昌还俗，开始书画生涯。一方面因为清政府的政策有所怀柔，另一方面也受到“不孝有三，无后为大”礼教思想的影响。“八大山人”这个我们熟悉的名字是他在 59 岁后才使用的。“八大”的出处，有一种说法是他见到一本《八大人圆觉经》，所以取这个名字；另一种说法是“八大”意喻“四方四隅（东、南、西、北、东北、西北、西南、东南），皆我为大”。出家的时候，他法号“传髻”，字“刃庵”，别署“雪个”（“个”就像一枝孤零零的竹子，在汉字里两个“个”就是一个“竹”字），有时会在作品上写“驴”作为自己的签名。

語るべきは彼が56歳のとき南昌で還俗し、書画の生涯を始めたことである。それは一方では清政府の政策がいくらか怀柔に傾いたことによるものであり、また一方では「不孝は3つあるが、最大のものは子孫を残さないことである」という孔子の思想の影響によるものである。「八大山人」という私たちがよく知る名前は、彼が59歳になったあとようやく使い始めたものである。この「八大」の由来については、『八大人圓覚経』に出合ったことでこの名をつけたという説がある。また、「八大」は四方四隅（東、南、西、北、東北、西北、西南、東南）で、すべて自分が大きいことを意味するという説もある。出家していたときの彼の法号は「傳髻」、字は「刃庵」、別のサインは「雪個」（「個」はぼつんとした竹のことで、漢字では2つの「個」で1つの「竹」の字となる）、作品には時折、「驢」と書いて自らのサインとした。



奇特的画风 和创新的精神

在寺庙修行的二三十年里，朱耷的书画天赋已经为人注意。他的画风虽然不能说在历史上从来没有出现过，不能说是“开山鼻祖”，但是他在取法明代中期的徐渭大写意花卉的基础上有了自己的突破，呈现给我们的是一个令人耳目一新的“自我”。同时，他对于晚明董其昌“笔墨论”的理解几乎超出任何一位画家，对于笔墨的运用更是令每一位观者惊叹。“笔墨”二字正是中国文人画能够长盛不衰的支柱，谁得笔墨精髓，谁的艺术就高明，谁的境界和格调就高。

寺で修行していた二、三十年の間、彼の書画はすでに注目されていた。彼の画風は歴史上それまで出現したことがないとはいえず、「始祖」だともいえないが、彼は明代中期の徐渭の大写意花卉（草花を題材として、細かい描写を省き、思いのままに描いた中国画）に倣いながら、それを乗り越え、私たちに斬新な「自我」を見せてくれている。同時に、彼は明末期の董其昌の「筆墨論」について誰よりも理解していた画家であり、筆墨（筆と墨）の活用は見る者を驚嘆させる。「筆墨」の二文字は中国の文人画における長きにわたって衰えることのない支柱であり、筆墨の真髄を得た人は、誰もが優れた芸術を体得し、高いレベルと格調を持っている。



特異な画風と革新的な精神

中国书画所用的笔是软笔，所谓“惟软笔而变化生焉”，就是说书画艺术的变化无穷源自这支“软笔”。墨则是经一种特殊工艺制成的书画原料，或许可以把它理解为“颜料”。这种原料和软笔搭配，加上宣纸的衬托，所谓的“墨分五色”，一笔下去，纸上就有了浓淡、干湿、虚实等变化。八大山人的绘画很好地发挥了中国画笔墨的特长，画面中不论是造型还是笔墨内涵都很有自己的想法，在中国画传统范畴中最大限度地体现了自己的笔墨精神。八大山人画的中国画，观者一见就能识别。这种在熟悉中找到陌生的感觉，正是中国古典艺术领域里最佳的“创新”路径。

中国の書画芸術の筆は軟筆で、いわゆる「軟筆だけが変化を生む」とは、書画芸術の変化が尽きることがないのは「軟筆」によるものだという意味である。墨は特殊な工芸によって作り出された書画の原料で、「絵の具」だと理解してもいいかもしれない。この原料と軟筆を組み合わせ、宣紙の引き立てを加えると、濃淡、乾湿、虚实などの変化が生まれ、いわゆる「墨は五色に分かれる」状態となり、一筆描けば、中にそのような変化が生じる。八大山人の絵は中国画の筆墨の長所を十分に発揮し、絵の中では造形であろうが筆墨の内包であろうが、そこに自らの考えが込められており、中国画の伝統の枠内で自らの筆墨の精神を最大限に表現している。読者から見ると、それが中国画であることは否定できないし、八大山人が描いた中国画であることも否定できない。このような熟知したものの中から奇抜なものを探し出す感覚は、中国の古典芸術の分野において、最も優れた「革新」の道である。

他的绘画风格就是“简单”二字。他结合自己的身世和画风写下“墨点多泪点多”的诗句，意思是自己作品的笔墨还没有眼泪多。在如此简单的笔墨中，他能够做到空间的分割、物象的造型、线条的表达、墨块的铺陈、书法的点缀，每一项都恰到好处，点到痛处，既与古人交心，又让观者会心。从这个意义上讲，不论是艺术的难度还是表现力，都达到了高峰。他的这种特征越到后期越明显，他晚年的作品几乎简约到不能再简约。后来，“扬州八怪”都受到他的影响，郑板桥就有“删繁就简三秋树，标新立异二月花”的句子，也是有感而发。

彼の絵のスタイルは簡単という二文字だといっていい。彼は自らの境遇と自らの画風を結びつけ、「墨点多からず涙点多し」という詩を残した。その意味は、自分の作品の筆墨は涙ほど多くないということである。このような簡単な筆墨の中で、彼は空間の分割、物象の造形、線の表現、墨の伸ばし、書道の装飾、そのそれぞれをちょうどまくり、肝心なところを突き、古人と心を交わし、見る者を喜ばせることもできたのである。その意味では、芸術の難度も表現力も頂点に達している。彼のこのような特徴は年を取れば取るほど顕著になっていき、彼の晩年の作品は、それ以上簡略化できないという境地にまで簡略化されている。その後、揚州八怪は皆、彼の影響を受け、鄭板橋は「煩雑な部分を取り除いて簡明にする」と9月の木のようになり、潮流を追わず新しい道を開くと2月の花のようになる」という文で、思いを記している。

广泛的流传和艺术的影响

広範な伝播と芸術の影響

今天，中国乃至世界各大博物馆要是有八大山人真迹，定能加分不少，观众也会不远万里前来观摩，这就是艺术的魅力。同样地，今天世界各地的拍卖行里要是有一件八大山人的真迹，那肯定是万众瞩目的拍品，竞价激烈，拍出天价也是意料之中的事情。

今日では中国や世界の大きな博物館に八大山人の本物の作品があれば、その博物館は必ず多くのポイントを加えることができ、参観者は遠くからでもやって来て鑑賞するだろう。それが芸術の魅力である。同じように、今日、世界各地のオークションハウスに八大山人の本物の作品があれば、それは間違いなく誰もが注目する出品となり、競りは激しく、驚くほど高い落札価格が予想される。

近代中国画坛著名画家齐白石曾经写过一首诗，讲到自己的师承：“青藤雪个远凡胎，缶老衰年别有才。我欲九原为走狗，三家门下转轮来。”徐渭、八大山人、吴昌硕是他崇拜的三位老师，前两位时代太早，无缘得见，他决心死后到阴曹地府向这三位老师一个个学。从作品来看，齐白石的绘画明显受到八大山人的影响，尤其是早年，他学习绘画的途径主要是跟着八大山人。他在成熟阶段虽然已经自立门户，但笔墨线条中依旧有八大山人的影子。



近代の中国画壇の著名な画家である齊白石はかつて一編の詩を書き、自分の師から伝授されたことを語った。「青藤（徐渭）と雪個（八大山人）は俗人から遠く、缶老（呉昌碩）は年老いてからも別の才を有し、私は九原（死後の世界）の走狗となり、3人の家に転生して行きたい」。彼が師と仰いだのは徐渭、八大山人、呉昌碩の3人であるが、前の2人は時代が早過ぎて、縁がなく会えなかったため、彼は死後、黄泉の国へ行き、3人の師一人一人に学ぼうと決心したのである。作品から見ると、齊白石の絵は明らかに八大山人の影響を受けており、とりわけ若かりしころは、彼が絵を学ぶ道は主として八大山人をたどることであった。彼が成熟段階に達したころのスタイルは、独り立ちしたものになっていたが、筆墨の線には依然として八大山人の影が見られた。

近代中国画壇の另一位著名画家張大千也对八大山人顶礼膜拜。他收藏的八大山人真迹甚多，今天美国各大博物馆的藏品里，就有不少是他曾经的宝贝。在没有去敦煌临摹壁画之前，他在上海主要学习八大山人和石涛两人的绘画，且能模仿得惟妙惟肖。張大千的荷花独歩画壇，其中墨色，尤其是表现荷茎的线条，就是取法八大山人的。

近代的中国画壇におけるもう1人の著名な画家である張大千も、八大山人を心から尊敬していた。彼が所蔵していた八大山人の本物の作品は非常に多く、今日ではアメリカの博物館の所蔵品の多くが、張大千のかつての宝物である。彼は敦煌へ行って壁画を模写する前に、上海で八大山人と石濤の2人の絵を学び、迫真の出来栄への模写をすることができた。張大千が描くハスは画壇でも独特なものであるが、その墨色、とりわけハスの茎を表現する線は八大山人に学んだものである。❶



揭开海昏侯国的

神秘面纱

——从发掘现场到博物馆的汉墓遗珍

作者：黄雪寅 黄雪寅
翻译：章胤杰 章胤傑



海昏侯国の謎を解き明かす

——漢墓の遺珍、発掘現場から博物館へ

在 2015 年中国文物网发起的“中国十大文物事件网络评选”活动中，“江西海昏侯墓葬考古成果发掘”高居榜首，成为中国年度最具影响力的文物事件。海昏侯汉墓一夜之间被推到了镁光灯下，成为媒体记者和广大民众热议的对象，人们期待揭开海昏侯国和墓主人刘贺的神秘面纱。

2015年に中国文物網がオンラインで実施した全国十大文物事件の選定において、江西省にある海昏侯墓の考古学的成果の発掘は首位に選ばれ、その年の中国の最も影響力のある文化財に関する出来事となった。海昏侯墓は一夜にして脚光を浴び、メディアや人々の間で話題となり、海昏侯国と墓主である劉賀をめぐる謎の解明が待ち望まれるようになった。



供图 / 南昌汉代海昏侯国遗址博物馆
南昌汉代海昏侯国遗址博物馆



2011年，江西省文物考古研究所接到群众举报，在南昌市新建县(现为新建区)大塘坪乡观西村东北约500米的墩墩山上，一座古代墓葬遭到盗掘。江西省文化厅、江西省文物局和南昌市政府高度重视，立即组织专家对现场进行勘查。从盗洞到出土葬具判断，该墓规模较大，等级较高，很可能与文献记载的汉昌王(海昏侯)刘贺有关。据历史记载，海昏侯国是刘贺被废黜后，于公元前63年在豫章郡海昏县建立的侯国。刘贺作为一位既当过皇帝又成为列侯的特殊人物，在江西海昏侯国至少延续了四代。发掘海昏侯国历史的责任落在了考古人的身上。从2011年至2015年，江西省集结本地和全国相关科技考古力量，经过历时五年的考古发掘，共勘探约100万平方米，发掘约1万平方米，在海昏侯墓周边5平方公里内发现了紫金城遗址、历代海昏侯墓园、贵族和平民墓地等海昏侯国一系列重要遗存。以海昏侯和侯夫人墓为中心的墓园中两座主墓同茔异穴，占据了总面积达4000平方米的礼制性高台建筑。

2011年、江西省文物考古研究所は、南昌市新建県(現在は新建区)大塘坪郷観西村の北東約500メートルにある墩墩山で古墳が盗掘されたという通報を住民から受けた。江西省文化庁、江西省文物局および南昌市政府はこの通報を非常に重視し、直ちに専門家を組織して現場の調査を行った。盗掘の穴や出土した埋葬具から判断すると、この墓は規模が大きく、位も高く、文献に記録されている漢昌王(海昏侯)劉賀に関わる可能性が高いのである。史料によると、海昏侯国は、劉賀が帝位を廃された後、紀元前63年に豫章郡海昏県に設置された侯国である。劉賀は皇帝にも列侯にもなった特別な人物として、江西において海昏侯国を少なくとも4代存続させた。海昏侯国の歴史を発見する責任は、考古学者にあった。2011年から2015年にかけて、江西省は地元と全国の関連科学技術考古学者などを結集し、5年間の考古学発掘を経て、約100万平方メートルを探索し、約1万平方メートルを発掘した。その結果、海昏侯墓周辺の5平方キロメートルにおいて、紫金城跡、歴代海昏侯の墓園、貴族や平民の墓地など、海昏侯国の一連の重要遺跡が発見された。海昏侯と侯夫人の墓を中心とする墓園において、2つの主な墓は夫婦合葬墓であり、総面積4000平方メートルの礼制的な高台建物を占めている。

海昏侯墓属于西汉中晚期采取“汉制”埋葬的列侯墓葬。从发掘情况看，海昏侯墓椁室早年已经坍塌，且有地下室水，遗物基本没有被盗，这在全国汉代高等级墓葬的发掘中十分罕见。出土金器、青铜器、铁器、玉器、漆木器、陶瓷器、竹编、草编、纺织品和简牍（签牌和奏章副本）等各类精美文物1万余件（套）。其中出土了10余吨约200万枚五铢钱，378件马蹄金、麟趾金、金饼、金板等，这是迄今为止出土的我国汉墓考古史上保存最完整、数量最集中的一次发现。此外，墓中还发现了大量工艺精湛的错金银、包金、鎏金铜器，其中，在一件青铜豆形灯座上，清晰刻有“南昌”二字，这是关于“南昌”城最早、最珍贵的实物资料。作为判定墓主人身份的重要物证也出土于墓中，一是真车马陪葬坑、整套的乐器（包括两架编钟，一架编磬、琴、瑟、排箫、笙和36尊伎乐木俑，形象再现了西汉列侯的用乐制度），证实了墓主人的地位属于列侯级别。二是墓中出土的有“臣贺”等字样的漆器、青铜器、印章和木牍，特别是棺内提取出了刻有“刘贺”二字的玉印，证实了墓主人是西汉第一代海昏侯刘贺。这一考古成果一经发布，引发了社会各界的高度关注，海昏侯墓出土文物和墓主人刘贺“视死如生”的地宫生活成为关注焦点。

海昏侯墓は、前漢中末期に「漢制」で埋蔵された列侯の墓である。発掘状況からみると、海昏侯墓の椁室は早い時期に崩壊しており、しかも地下室に水があったため、遺物はほとんど盗まれていなかった。これは、全国の上位漢墓の発掘では非常に珍しいことである。海昏侯墓からは、金器、青銅器、鉄器、玉器、漆の木器、陶磁器、竹編、わら編、織物、簡牘（札や奏章の副本）など、各種の精巧な文化財約1万点（セット）が出土した。そのうち、五銖銭は10トン以上で約200万枚、馬蹄金、麟趾金、金餅、金板は378枚と、これまで発掘された中国漢墓の考古学史上、最も完全かつ集中的な発見となった。さらに、見事な細工が施された錯金银、包金、鎏金銅器も多数発見され、青銅製の豆形灯台には「南昌」の文字がはっきりと刻まれており、これは「南昌」城に関する最古かつ最も貴重な実物資料となっている。また、墓主の身



供图 / 南昌汉代海昏侯国遗址博物馆
南昌汉代海昏侯国遗址博物馆



供图 / 南昌汉代海昏侯国遗址博物馆
南昌汉代海昏侯国遗址博物馆

元を特定するための重要な資料も墓から出土した。一つは、本物馬車のある副葬坑、楽器一式（前漢列侯の礼楽制度を再現した編鐘2個、編磬、琴、瑟、排簫、笙、36体の伎楽木俑など）であり、墓主の地位が列侯級であることを示している。もう一つは、「臣賀」の文字が刻まれた漆器、青銅器、印章、木簡であり、特に「劉賀」の文字が記された玉印は棺から取り出され、墓主が前漢初代海昏侯の劉賀であることを裏付けている。この考古学的成果が発表されると、社会各界から大きな関心が寄せられ、海昏侯墓の出土品や、墓主劉賀の「視死如生」的な地下宮殿での暮らしが注目されるようになった。

一般来说，考古发掘成果在博物馆展览，是博物馆展览中的重要内容。但通常是考古人员完成考古发掘并发表考古报告之后，博物馆才可以将文物及发掘报告等成果集中展示并公布于众。当时，海昏侯墓尚处于发掘整理过程中，许多出土文物仍在文物实验室接受保护和研究，大量的考古成果尚无结论。在如此大规模的社会目光关注下，如何发挥博物馆的考古知识普及功能，最大限度揭开考古学的神秘面纱，让观众一睹这个墓群珍贵的出土文物，领略“事死如生”的汉代葬俗和汉代列侯的奢华地宫生活，从而了解中国汉代政治、经济、文化等多方面的成就，成了亟待考古人解决的课题。在江西省文物局和北京文物局主办下，首都博物馆联手江西省文物考古研究所和江西省博物馆等机构，克服边考古边展览的困难，于2016年3月在北京首都博物馆举办了《五色炫曜——南昌汉代海昏侯国考古成果》特展，展览的大门一打开，观众如潮水般蜂拥而至，在短时间内形成了“文博热”，首都博物馆也成为当时北京市民文化生活的网红打卡地，收获了良好的社会效益。

一般的に、考古学的な発掘調査の成果を博物館で展示することは、博物館の展示の中でも重要なものとなっている。しかし、博物館が文化財や発掘報告書などの成果をまとめて展示し、公開することができるのは、通常、考古学的発掘が終わり、考古学的報告書が発行された後である。当時、海昏侯墓はまだ発掘と整理の段階にあり、出土した文化財の多くは文物実験室で保護および研究されており、多くの考古学的成果もまだ結論が出ていなかった。社会的に大きく注目されている中で、博物館の考古学知識の普及という機能をいかに発揮して、考古学の謎を最大限に解明し、観客にこの墓群から出土した貴重な文化財に触れてもらい、「事死如生」という漢代の埋葬習慣や漢代列侯の豪華な地下生活を鑑賞することを通して、中国漢代の政治、経済、文化などの多方面の成果を理解して

もらうかは、考古学者が解決しなければならない喫緊の課題となった。江西省文物局と北京市文物局の主催のもと、首都博物館は江西省文物考古研究所や江西省博物館などと協力して、考古を進めながら展示する困難を克服し、2016年3月に北京の首都博物館で「五色炫曜—南昌漢代海昏侯国考古成果展」という特別展を開催した。展覧会の扉が開くと、来場者は波のように押し寄せ、短期間で「首博ブーム」を巻き起こした。首都博物館は、当時の北京市民の文化的生活の人気スポットとなり、良い社会的利益が得られた。

面对大众的期待，如何全面介绍汉代历史和列侯制度，如何客观理解汉代“视死如生”的生死观，如何正确认识海昏侯国的奢华陪葬遗物等问题，首都博物馆借助江西省博物馆、江西省文物考古研究所考古科研优势，以墓葬考古为主要展览内容，介绍西汉王侯的陵寝并延伸至汉代历史。同时，展览展示当代科技在考古中的应用，如考古现场科技保护专家如何精心处理木简、漆器、青铜器的铭文以及许多出土器物的多光谱分析结果，令观众亲眼目睹了科技考古的神奇力量。首博策展团队利用科技手段在展厅营造了汉文化元素氛围，并将考古现

供图 / 南昌汉代海昏侯国遗址博物馆
南昌汉代海昏侯国遗址博物馆



场的发掘照片大量用于辅助展版，采用通体玻璃多面可视展柜，为观众提供了多角度欣赏这批珍贵出土精品的绝佳条件。在照明设计和展版文字方面，策展团队最大限度地满足观众参观可视度，使观众在阅读展版文字和拍照的参与度方面，能得到最大限度的获得感和心理满足感。为了提高讲解的专业化水平，首博特意派出讲解员团队前往江西海昏侯发掘现场，在考古专家的带领下亲身体验墓葬发掘的工作过程，并通过与当地博物馆交流，更多地掌握江西历史文化知识，更深入地了解海昏侯其人其事，将文物背后的故事与人物进行深度结合，让一位“沉睡”了两千多年的汉代海昏侯在观众的面前“复活”。

人々の期待に応えるように、漢王朝の歴史と列侯制度をどのように全面的に紹介するか、漢代の「視死如生」という死生観をどのように客観的に理解するか、海昏侯の豪華な副葬遺物をどのように正しく認識するかなどの問題をめぐって、首都博物館は江西省博物館と江西省考古研究所の考古研究の強みを活かし、展覧会において墓葬考古を主な内容として、前漢の王と諸侯の陵寢から漢王朝の歴史に至るまで幅広く紹介した。同時に、考古学における現代技術の応用も示した。例えば、現場の科学技術保護の専門家がいかに丁寧に木簡や漆器、青銅器に刻まれた銘文を処理したか、および多くの出土品のマルチスペクトル分析の結果などが展示で公開され、観客は考古学における科学技術の驚くべき力を目の当たりにした。首都博物館の展覧会企画チームは、テクノロジーを駆使して展示会場に漢の文化要素の雰囲気を出し、展示パネルにおける現場での発掘写真の大量使用、および全面ガラス張りのショーケースの採用を通して、観客にこれらの貴重な出土品を多面的に鑑賞できる優れた条件を提供した。また、照明デザインや展示パネルの説明文については、来場者の視認性を最大限に高め、パネル説明文の閲覧と撮影への参加について、獲得感や心理的満足感が得られるように設計された。解説の専門性を高めるために、首都博物館は解説員チームを江西省の海昏侯墓の発掘現場に派遣した。考古専門家の指導のもとで発掘作業を体験し、また地元の博物館との交流を通じて、江西省の歴史と文化を学び、海昏侯に対する理解をさらに深め、文化財の秘話と関連人物を組み合わせ、2000年以上も眠っていた漢代の海昏侯を観客の前で「復活」させた。



供图 / 南昌汉代海昏侯国遗址博物馆
南昌汉代海昏侯国遗址博物馆



该展览在首都博物馆展出了300多件（套）海昏侯国精品，引发了轰动性文化效应。为期三个月的展览，参观人数达到422485人，展览后评估整体满意度达到95%。

この展覧会は、首都博物館において300点（セット）あまりの海昏侯国の文化財を展示し、センセーションを巻き起こした。3か月にわたる展覧会には42万2485人が訪れ、展覧会後の評価では全体の満足度が95%にも達した。

2021年、在考古遗址上建设的南昌汉代海昏侯国遗址博物馆落成。博物馆设计独特，占地面积118802平方米，总建筑面积39250平方米，其中地上两层，地下一层，共有展品近万件。此外，海昏侯国遗址数字博物馆也已上线，更直接地呈现和展示汉代海昏侯国时的建筑、衣食住行和文化生活，方便有兴趣的观者随时观赏。

2021年、遺跡の上には「南昌漢代海昏侯国遺跡博物館」が建てられた。ユニークなデザインを持つこの博物館は、敷地面積118,802平方メートル、延床面積39,250平方メートル、地上2階と地下1階からなるものであり、館内には10,000点近くの展示物がある。さらに、漢代の海昏侯国時代の建築、衣食住、文化生活をより直接的に紹介および展示する「海昏侯国遺跡デジタル博物館」も開設され、興味のある観客はいつでも鑑賞できるようになっている。❶



宋应星と 『天工開物』

宋应星与 《天工开物》

作者：崔高浩 崔高浩
翻译：山建国 山建国





2020年年底，中国嫦娥五号月球无人探测器采集到了月壤样品并成功返回地球。2021年，国际天文学联合会（IAU）正式批准了嫦娥五号着陆点附近八个月球地貌的命名。这八个命名中有许多中国古代科学家的名字，其中就有被英国著名生物化学家（曾因研究中国科学史而声名远扬的）李约瑟（Joseph Needham, 1900—1995）誉为“中国狄德罗（Diderot）”的宋应星，他的作品《天工开物》被称为“中国17世纪的工艺百科全书”。

2020年末、中国の嫦娥5号無人月面探査機が月の岩石や砂などのサンプルを採取し、無事、地球へ帰還した。2021年、国際天文学連合（IAU）は、嫦娥5号の着地点付近にある8つの月の地形に関する命名申請を正式に承認したが、そのうちの多くが古代中国の科学者の名前であった。そして、その中には英国の著名な生化学者で、かつて中国科学史の研究で名をはせたジョゼフ・ニーダム氏（1900～1995年）から「中国のディドロ」と称された宋応星の名もあった。彼の著書『天工開物』は「中国17世紀の技術百科全書」と称される。

宋应星其人

宋応星の人物像

宋应星（1587—约1666）是明朝科学家，出生于中国江西南昌府奉新县的一个士大夫家庭，在四兄弟中排行第三。他从小就聪明过人，过目不忘，记忆力惊人。1615年（明万历四十三年），宋应星和兄长宋应升一起通过乡试中举。此后虽几经会试，但均告失败，两兄弟遂绝科举之念。

1635年（崇禎八年），宋应星任县学

教谕。1643年（崇禎十六年），又任亳（Bó）州知州。但第二年初，他便辞官返乡。当时，大明王朝气数已尽。当年三月，李自成大军攻破京师，明朝灭亡。1646年（隆武二年），宋应升服毒殉国，宋应星开始了隐居生活，拒不出仕。虽然具体卒年尚不清楚，但据推测，宋应星大约在1661年或1666年逝世。

宋応星（1587～1666年ごろ）は明朝の科学者である。江西南昌府奉新県で士大夫の家庭に、4人兄弟の3番目として生まれた。彼は幼いころから聡明で、一度見た物事を忘れない驚異的な記憶力を持っていた。そして、1615年（明の万歴43年）に彼は兄の宋応昇とともに科挙の郷試に合格した。しかし、その後、会試を何度か受験したものの、いずれも合格できず、兄弟の科挙合格の夢はついでた。1635年（崇禎8年）、宋応星は県の学校で教員となり、1643年（崇禎16年）には亳州の知事に任命されたが、2年目の初めに職を辞して故郷に帰った。当時、大明王朝の命運は尽きようとしていた。その年の3月、李自成の大軍が首都に攻め入り、明は滅亡した。1646年（隆武2年）、兄の宋応昇は国に殉じて服毒自殺し、宋応星は隠居生活を開始して、国に仕えることを拒んだ。彼の具体的な没年は不明ながら、1661年または1666年に亡くなったと推測されている。



供图 / 中国邮政 中国郵政

《天工开物》的创作背景

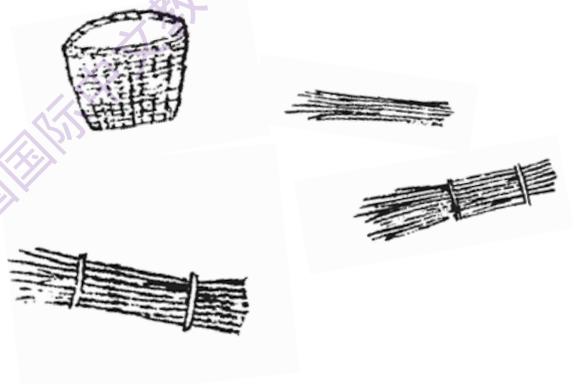
『天工開物』創作の背景

在《天工开物》问世的明朝，许多产业都比较发达，城市繁荣，商品经济活跃，市井文化如雨后春笋般兴起。此外，重视“知行合一”的心学广泛流行，西洋传教士将西方文化产物介绍到中国，这些都有助于植物学、农学、地理学等实用的技术科学著作的发展，诸如李时珍的《本草纲目》、徐光启的《农政全书》以及宋应星的《天工开物》就是在这样的背景下创作出来的。

『天工開物』が世に出た明の時代には、多くの産業がかなり発達しており、都市が繁栄し、商品経済が活発になり、市井の文化は雨後のたけのこのように勢いが盛んであった。このほか、「知行合一（知識と行為は一体である）」を重視する心学が広く流行し、さらに西洋からの宣教師が西洋文化の産物を中国に紹介するにつれて、これらの状況がいずれも植物学、農学、地理学などの実用的な技術や科学に関する著作の発展に寄与した。例えば、李時珍の『本草綱目』、徐光啓の『農政全書』、そして宋應星の『天工開物』は、ともにこの背景のもとで創作されたのである。

《天工开物》中的“天工”取自《尚书·皋陶谟》的“天工人其代之”，“开物”取自《周易·系辞上》的“开物成务”。“天工”与“人工”相对，指自然的事物；“开物”则指人类通过工具和技术造物。因此，“天工开物”意为人类通过主观努力，利用自然资源造物。

『天工開物』の「天工」は『尚書・皋陶謨』の「天工人其代之（天の神様が行うことは、人間界において役人がその代わりに行う）」に由来し、「開物」は『周易・系辞上』の「開物成務（万物を開発し、あらゆる事業を成功させる）」から来ている。「天工」は「人工」に相対する概念で、自然の物事を指す。「開物」は人類が道具と技術を通じて創造したものを指す。ゆえに「天工開物」というタイトルは、人類が主観的な努力を通じて、自然の資源を利用し物事を生み出すという意味である。



《天工开物》 的内容

『天工開物』の内容

《天工开物》共三篇十八卷。

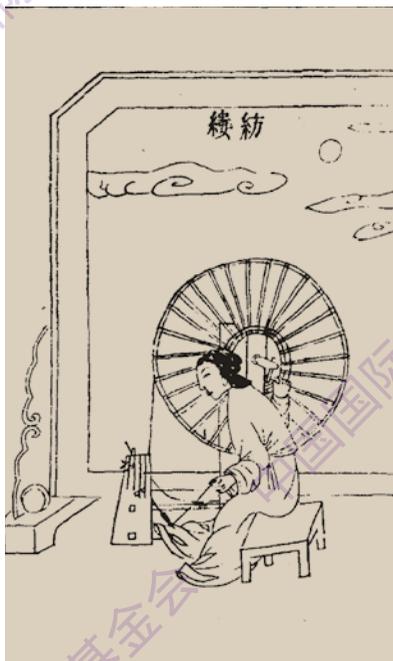
『天工開物』は合わせて3巻18部門から成っている。

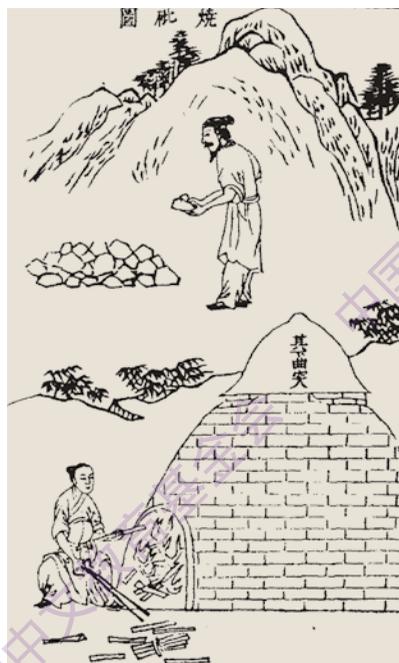
上篇涉及天产：乃粒（粮食作物的栽培技术）、乃服（衣服原料的来源及加工方法）、彰施（植物染料的染色方法）、粹精（谷物的加工过程）、作咸（六种食盐的生产方法）、甘嗜（种植甘蔗及制糖、养蜂的方法）。

上卷は天の創造物について書かれている：乃粒（食糧となる作物を栽培する技術）、乃服（衣服の原料の由来および加工方法）、彰施（植物染料を使った染色方法）、粹精（穀物の加工過程）、作咸（6種類の食塩に関する生産方法）、甘嗜（サトウキビ栽培と製糖、養蜂の方法）。

中篇涉及人工制造：陶埴(shān)（砖、瓦、陶瓷的制作）、冶铸（金属用品的铸造及加工）、舟车（船舶、车辆的结构、型式及制作）、锤(chuí)锻（用锤锻方法制作铁器和铜器）、煇石（石灰、煤炭等的烧制技术）、膏液（16种植物油脂的提取方法）、杀青（造纸的五个程序）。

中卷は人が作り出したものについて書かれている：陶埴（れんが、瓦、陶磁器の製造）、冶鑄（金属製品の製造および加工）、舟車（船舶、車輛の構造、型式および製造）、錘鍛（つち打ちを使った鉄器と銅器の製造）、煇石（石灰や石炭などの焼成技術）、膏液（16種類の植物油の抽出方法）、殺青（製紙の5つの過程）。





下篇讲述了与物品功用相关的内容：五金（金属的开采和冶炼）、佳兵（弓、弩、盾等冷兵器以及火药等武器的制造方法）、丹青（墨和颜料的制作）、曲蘖（niè）（制酒的方法）、珠玉（宝石的来源）。

下卷は物の効用に関する内容である：五金（金属の採掘と製錬）、佳兵（弓、石弓、盾などの冷兵器および火薬などの武器に関する製造方法）、丹青（墨と顔料の製造）、曲蘖（酒造の方法）、珠玉（宝石の源）。



从结构上可见,《天工开物》是一部囊括了当时主要产业的“百科全书”。宋应星以观察、经验和实证为基础,具体阐释了多种产业的生产过程,并配了123幅插图。这些插图形象具体,详细地描述了各种制造技术和过程。另外,《天工开物》里没有记载方书和本草学的相关内容,这表明宋应星是一位以客观、实证的态度试图对物质世界进行独创性探索和认识的伟大学者。

『天工開物』の構成を見ると、当時の主要産業をまとめた「百科事典」であることが分かる。宋応星は観察、経験、実証を基礎として、多くの産業の生産過程を具体的に解説し、特に123点の挿絵を描いた。それらの挿絵は形状が具体的であり、さまざまな製造技術やその過程を詳細に描写している。また、『天工開物』には薬剤の調合や本草学（薬用とする植物、動物、鉱物についての研究）に関連する内容の記載がない。それは宋応星が客観的、実証的な姿勢で物質世界を独創的に探索し理解しようと試みた偉大な学者であることを物語っている。



供图 / 视觉中国 VCG

《天工开物》的传播

『天工開物』の広まり

1637年（崇禎十年），在宋应星的友人涂绍煒（kuí）的资助下，《天工开物》首次在南昌府刊行。清初的杨素卿翻刻此本，此本流通范围较广。此后，《天工开物》被收录在《古今图书集成》和《授时通考》中，后在中国渐被遗忘，事实上已失传很久。17世纪，《天工开物》被传到了当时江户时代的日本，并被制作了很多副本。1771年，大阪的书林菅（jiān）生堂出版了和刻本，此后几经再版并越发受到重视。直到民国时期，在日本留学的中国人将《天工开物》和刻本带回中国，《天工开物》的存在和价值才重新被发现。

1637年（崇禎10年）、『天工開物』は宋应星の友人である涂紹煒の支援のもとで、初めて南昌府で刊行された。そして、清朝初期に楊素卿がこの本を模刻したことでより広く出回った。その後、『天工開物』は『古今圖書集成』や『授時

通考』にも収録されたが、中国では徐々に忘れ去られ、事実上その広がり途絶えて長い時間が経過した。17世紀、『天工開物』は当時の江戸時代の日本に伝わり、多くの副本が作られた。1771年、大阪の書林菅生堂が和刻本を出版し、その後、度重なる再版を経て、重視されるようになった。そして、中華民国の時代になると、日本に留学した中国人が『天工開物』の和刻本を中国に持ち帰り、その存在と価値が再発見された。

此外，《天工开物》在18世纪以后传入朝鲜，在朴趾源的《热河日记》和徐有榘（jù）的《林园经济志》等书中均被提及。

朝鮮半島の状況はというと、『天工開物』は18世紀以降伝わり、朴趾源の『熱河日記』や徐有榘の『林園經濟志』などの書物の中で言及されている。

宋应星纪念馆

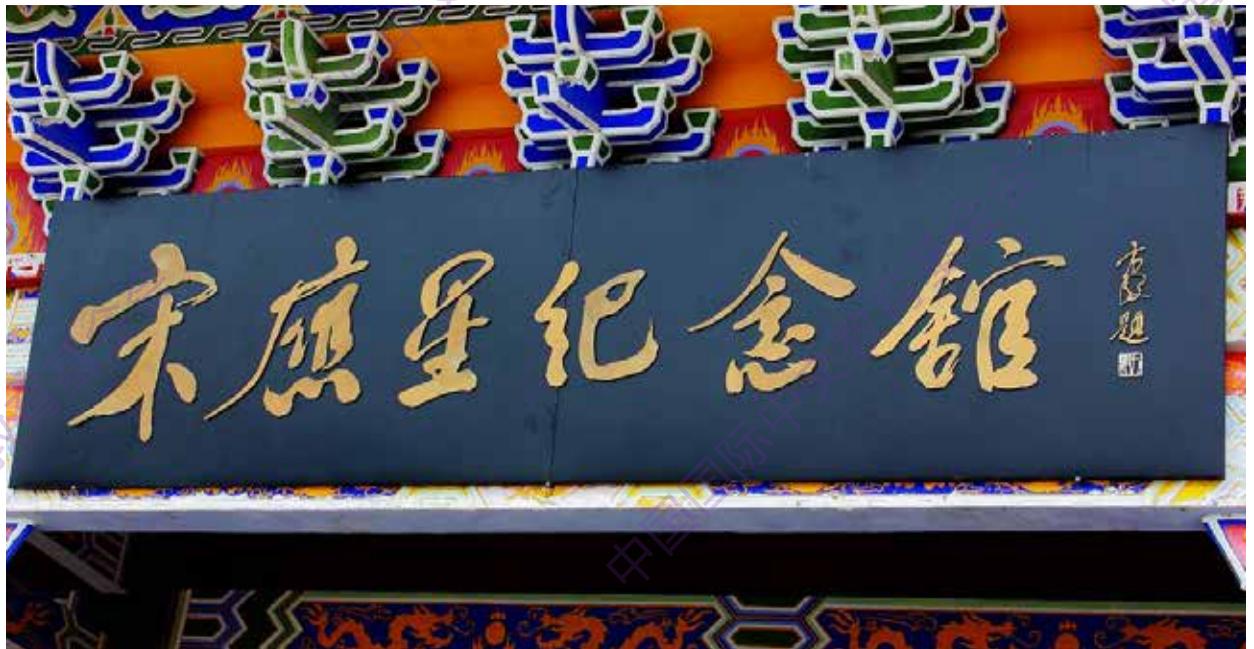
宋応星記念館

就像月球上的一处地貌以宋应星的名字命名一样，江西南昌市奉新县也被称为“宋应星县”。奉新县大力歌颂宋应星的丰功伟绩，诸如应星北大道、应星南大道等中心街道名以及宋应星公园、宋应星纪念馆等地名都体现了这一点。

月面に宋応星という名がついたのと同様に、江西省南昌市奉新県もまた「宋応星県」と呼ばれている。奉新県は宋応星の多大な功績を大いにたたえ、応星北大道や応星南大道といった中心部の通りの名前や、宋応星公園、宋応星記念館などの地名に彼の名を冠している。

宋应星纪念馆位于宋应星公园内，由主馆、天工馆和开物馆组成，系统详实地介绍了宋应星及《天工开物》的相关资料和内容。特别是天工馆和开物馆都使用了尖端科学技术，生动形象地展示了农业和手工业的制作过程，对江西省乃至全中国的科学普及和科学教育都发挥了重要作用。

宋応星記念館は宋応星公園の中にあり、本館、天工館、そして開物館で構成されている。館内では宋応星および『天工開物』に関する史料や内容を体系的かつ詳細に紹介している。とりわけ天工館と開物館では、先端科学技術を使って、農業や手工業の製造過程を生き生きと展示し、江西省ひいては中国全土における科学の普及や教育に重要な役割を果たしている。❷



古老而独特的

作者：吴家平 吳家平
翻译：谢秦 謝秦

古い歴史を
持つ独特な
「東河戯」

東河戯

东河戏，作为江西省的古老剧种，发源于赣县田村白鹭一带。据《中国戏曲曲艺词典》记载：东河戏发源并流传于江西东河（即贡水），故名。起源于明嘉靖年间赣县清唱的“坐堂班”。其产生和田村境内的契真寺有着密切的联系。

東河戯は、江西省の伝統演劇の一つとして、江西省贛県田村白鹭あたりに起源をもつものである。『中国戲曲曲芸辞典』の記載によると、東河戯は江西東河（即ち貢水）一帯に発祥したため、東河と名付けられたという。明の嘉靖年に贛県の「坐堂班」が演じるのが初めてで、田村にある契真寺と密接な関わりを持つとされていた。

契 真寺初建于汉代，到了元明时期香火极盛，寺内僧人多达二、三百人，其声望之大可播及闽、粤、湘、浙、皖、鄂和川等地。故每逢庙会，来自省内外各地的朝拜人士，成群结伙，络绎不绝。他们中有一些人在进香朝拜之暇，常常在住处吟唱高昆曲子，年复一年，田村人对高腔曲子渐感兴趣，纷纷学唱，有些私塾师生也争相传习，时间一长，聚唱成风。明嘉靖年间逐渐形成高昆腔的“坐堂班”。传说，明末，在契真寺前搭有戏台，谓之“民乐台”，专为东河戏演出之用。故有“没有契真寺，就没有东河戏”之说。

契 真寺は漢の時代に建立されたお寺で、元、明の時代になると、絶大な人気を集めるようになり、僧侶の数が二百から三百にも達していたと言われ、その影響力が閩、粵、湘、浙、皖、鄂、川などの地域にも及ぼした。お寺の縁日に各地から群れを成してお参りに来る参詣人は後を絶たないのである。中には仏前にお線香を供えながら礼拝するほかに、宿泊先で高昆曲を吟唱する信者も多くいた。次第に田村の人々はこの甲高い曲に興味をもつようになり、きそってそれを真似たり、塾に通いながら習得しようとするものも出た。やがてそれが流行となり、明の嘉靖年に高昆調の流れを引き継いだ「坐堂班」が出来上がったのである。明の末期に、契真寺の前に「民楽台」と呼ばれる東河戯だけを演じる専用舞台まで立てられたという。「契真寺がなければ東河戯も生まれえない」という言い方はここに由来する。



“坐堂班”始于庙会期间，香客带来的歌班乐队，每班五六人或者七八人不等，乐队有管弦、打击乐，词曲有高、昆、南北词，后期有弹腔。其中分雅、俗两种，所谓“雅”者，即文人学士欢聚一堂，吹拉弹唱，以消磨岁月为主；所谓“俗”者，即艺人用以谋生，除司宴会时演唱助兴外，兼司奏乐迎送宾客。

「坐堂班」はお寺の縁日に信者たちが連れてきた歌唱隊によって始まった。隊員五、六名から七、八名ほどの規模となる歌唱隊は管弦楽、打楽器からなっており、高、昆、南北詞などの節回しを持つほか、後に弾腔も持ち合わせるようになった。曲には雅と俗との二種がある。雅とは、文人学士が一堂に集まる際に「吹撥弾唱」（吹奏、撥弦、弾鍵、歌唱の略）を楽しみながら暇つぶしをすることを指すのに対し、俗とは、芸人は生計を立てるために宴会に興を供えたり、客人を送迎する際に演奏したりするのを指すものである。

在“坐堂班”盛行时，田村流传着一种装故事的习俗。每逢庙会，必以男女儿童扮作神道仙佛故事中的人物或者流行戏曲中的画面，置于数尺见方的小轿台上，肩抬游行。

「坐堂班」の最盛期に、田村には故事を演じる風習が流行り出したという。お寺の縁日に、子どもたちに神道仏教の伝説上の仙人や仏様、流行戯曲の役柄などに扮して数尺しかない小さな神輿に立たせる。大人たちはその神輿を担いで行進するというようなお祭りがあった。



明万历年间，刘仁全及其私塾师生，尝试着将田村只唱不坐的“坐堂班”与有形无声的扮故事合二为一，加上富有地方色彩的民间锣鼓曲牌，搬上舞台演出，经过不断改进吸收，积累了不少剧目，包括有名的高腔连台大戏《目莲传》《西游记》《三国演义》《岳飞》及许多正本、杂套。到清顺治三年，刘仁全去世后的第八年，东河戏的雏形“玉合班”正式成立。因赣州为章、贡二水汇合处，章水在西称为“西河”，贡水在东称为“东河”，因东河戏发源于贡水，故定名为“赣州东河戏”。

明の萬曆年間に、劉仁全は塾生を率いて、田村の歌唱に長ける「坐堂班」と、パフォーマンスに長ける「扮故事」とを併合させ、更に地方色豊かな民間銅鑼太鼓曲を付け加えた新しい形の演劇を舞台で演じるようにした。切磋琢磨していくうちに、多くの演目が次々と作られ、『目蓮伝』『西遊記』『三國演義』『岳飛』をはじめとするものが数多く披露された。清の順治三年、劉仁全がなくなった八年目に、東河戲の原型となる「玉合班」が創立された。贛州は章と貢の二つの川の合流点で、章水を「西河」と、東河戲の発祥地である貢水を「東河」と称されたため、「玉合班」の演じる戯曲が「贛州東河戲」と名付けられた。

“玉合班”同期又出现了“雪聚班”。清顺治十一年，苏州昆曲班社演员来到东河组建了“昆曲雪聚班”。后戏班有本

地人参与，改名为“凝秀班”。“玉合班”以高腔为主，剧目繁多，而且行当齐全，人才荟萃。历代有演生行、旦行、净行和丑行，都演技超群，各有绝招，名噪一时。“凝秀班”则以唱昆曲为主，兼唱高腔。它首开风气，仿清宫演出模式，运用机关布置，灯彩特技上演《白蛇传》。蟒蛇出洞，翻滚泳弋，让不够身份观看演出的当地人大饱眼福。从此以后，“凝秀班”的蛇、“玉合班”的耙，在群众中广为流传，这两个班社也逐渐成为东河戏的源流。

「玉合班」とほぼ同時期に「雪聚班」も頭角を現すようになる。清の順治十一年、蘇州昆曲の役者は東河に移ってきて「昆曲雪聚班」を作ったのが初めてで、その後地元の役者の加入と合わせ、「凝秀班」と改名された。「玉合班」は甲高い曲が特色で、演目も豊富である。さらに役柄も多種多様で、大きく生（立役）、旦（女方）、浄（豪傑、敵役）、丑（道化役）に分かれ、演技拔群の役者が輩出した。一方、「凝秀班」は昆曲を主として、清の宮廷生活を演じるところが斬新である。『白蛇伝』の公演では、舞台装置や照明を利用することで大蛇が逆巻く波に遊弋する姿が迫真に演じられ、スリル満点な演出で絶大な注目を集めたという。以来、「凝秀班の蛇、玉合班の耙」という言い方は人々の口々に登るようになり、両班は次第に東河戲の源流と見なされるようになった。



供图 / 吴家平 吴家平



随着时代的发展，东河戏又不断地广征博采，吐故纳新，逐步形成一个大型剧种。清康熙年间，有一宜黄人，在赣县石院当司官，带来了宜黄调，称为“二凡”，后称“二黄”。此为东河戏吸取二黄调之始。咸丰年间，赣县艺人丁仔师傅在广西桂剧班丑行，回家后，他把桂剧的十多本西皮戏传授给东河戏艺人，如《仁圣会》《双界牌》等。尔后，东河戏又大量吸收了安庆调、弋板、南北词、秧腔……自此，东河戏已经非常成熟，受到广大观众的喜爱。自乾隆年间，历经多个朝代，时隔一百多年，东河戏达到全盛。此时，班社达30多个，剧目有《目莲》《三国》《封神》《岳飞》等八种连台本大戏，另有高腔剧目225出，昆腔剧目104出，其他剧目518出，演出范围逐步由赣南内地扩展到周边的万安、遂川、泰和以及外省福建、广东等地。

時代の流れとともに、東河戲は人材を広く採用し、演目の新陳代謝を図ることを常に心がけてきた。清の康熙年間に、宜黄出身の役人が赣県に赴任する際に「宜黄調」という節回しを伝来させ、「二凡」及び「二黄」と呼ばれる節回しが東

河戲に取り入れられるようになった。さらに清の咸豊年間に、広西の桂劇班に丑（道化役）を演じる赣県の芸人丁仔は、桂劇の『仁聖会』『双界牌』など西皮（皮は歌うこと）という曲調を数多く東河戲の芸人に伝授した。その後、更に安慶調、弋板、南北詞、秧腔（腔は節回しのこと）などを取り入れつつ、やがて東河戲は大成をし、多くのファンを集めた。清の乾隆年間から百年以上の発展を遂げ、東河戲は全盛期を迎えた。班社の数は30にも達しており、演目は『目蓮』『三国』『封神』『岳飞』など八種の台本を有したほか、高腔演目は225種、昆腔演目は104種、その他の演目は518種なども有するほど豊富なものとなった。その公演はやがて赣南の地域から万安、遂州、泰和そして福建、広東にまで影響力をもつようになった。

在东河戏几百年的发展史上，白鷺村的钟崇俨、钟谷父子俩占有比较重要的地位。

東河戲の何百年もの歴史の中では、白鷺村の鐘崇儼、鐘谷親子が大きく貢献したことが特筆すべきものである。



钟崇俨（1778—1858），于嘉庆十一年，任浙江嘉兴知府。当时官绅多以昆曲作为家乐，以尝其雅音，钟崇俨也亲自组建昆腔班，在家扮演，并娶当时昆腔班中的苏州女子平氏（钟谷生母）为妾。其兄钟崇信能作词曲，丫环仆役均为昆班之人。道光二年，钟崇俨辞官率领昆班回到白鹭，家庭中经常以昆曲自乐，并把东河戏的高腔班社融于一体。

钟崇儼（1778-1858）は、清の嘉慶11年に浙江嘉興の府知事に在任する間、現地の役人は日常の音楽として昆曲に耽っていたのを見て感銘を受け、みずから昆腔班を作り、自宅で演出を楽しんだという。更に昆腔班の役者である蘇州の女子平氏（後に鐘谷の生母になる）を妾として迎えた。鐘谷の兄である鐘崇信は作曲に長けて、その身の辺の召し使いはみな昆腔班の役者である。清の道光2年に、鐘崇儼は職を辞し昆腔班を率いて白鹭に戻った。昆曲を自宅で楽しみながら、東河戲の高腔班との合体に成功させた。

钟谷（1843—1919），系钟崇俨四子，光绪九年，任湖北黄梅知县。钟谷在昆曲家中成长，耳濡目染，酷爱音律，并得其母家传，又经名师指导，与昆曲结下了不解的情缘。清光绪二十四年，钟谷回到白鹭后，醉心于东河戏的创新与推广。他常招“凝秀班”至家中亲自指导，力致其唱腔、剧艺及演奏精益求精。之后“凝秀班”上演的大小近百出戏，无一不是由钟谷亲自整理编排和导演的。

鐘谷（1843-1919）は鐘崇儼の四男で、清の光緒9年に湖北黄梅の県知事に務めた。幼少時代から昆曲に聞きなれたりして、音律を酷く愛好した。母親の影響を受けたこともあり、更に師匠に習ったことで昆曲と深い縁を結んだ。清の光緒24年に、鐘谷も白鹭に戻った。以来東河戲のさらなる発展に心血を注いだ。「凝秀班」を自宅に招いて指導を施したり、歌唱、演技及び音楽が一層立派なものにするために向上に向上を重ねた。その後、「凝秀班」の大小百種目も近い演目の制作と監督に鐘谷が務めたという。

钟崇俨父子迭受封典，对清庭礼乐仪式尤为熟悉。这给东河戏带来了一股清新的气息，故东河“凝秀班”不仅为乡民所喜爱，也受当地官绅之敬仰。

鐘崇儼父子は度々朝廷に封ぜられることもあり、清の宮廷礼楽に精通していた。これがまた東河戲に新たな気風をもたらした。よって東河戲の「凝秀班」は庶民に好まれるだけでなく、現地の役人の間にも敬われるものとなった。

东河昆腔由江浙传入，经钟崇俨父子悉心传授，又在音律上经钟谷之修饰，融高腔于一体，使东河戏当之无愧成为江西古老剧种。

このように、東河昆腔は江浙地区から伝来するものではあるが、鐘崇儼父子の鋭意なる伝授、鐘谷が音律面における研鑽によって、高腔と昆腔の精妙なる合体を遂げた。東河戲は江西伝統演劇になるのが言うまでもないものである。

供图 / 吴家平 吴家平



2014年，东河戏被列入国家级非物质文化遗产代表性保护名录。为弘扬中华优秀传统文化，东河戏非遗传承人马玉兰大力开展东河戏的保护传承工作，通过挖掘整理文字、音频、视频等形式进行抢救性保护，又大力开展东河戏非遗项目传承人的培训。同时，她把东河戏的音乐融入广播体操，实现东河戏高腔、昆腔、弹腔与广播体操青春、欢快、灵动之间的交融，使古老的东河戏变成现代的韵律操，不断推动东河戏融入寻常百姓家，融入现代人们的日常生活。

2014年、東河戲は国家級無形文化遺産代表保護目録に指定された。中国の優秀傳統文化を發揚するために、東河戲無形文化財傳承人である馬玉蘭は東河戲の保護と傳承に全力を尽くしている。文献記録、オーディオやビデオ資料の整理を通して東河戲の保護を図り、東河戲無形文化財傳承人材の育成にも努めた。また、東河戲の曲をラジオ体操に取り入れ、東河戲の高腔、昆腔、彈腔と、ラジオ体操の明快敏捷さをうまく融合させたことで、古風な東河戲が現代的リズムカルなエクササイズに変身させることができた。このように、東河戲は庶民に親しみやすい芸術となり、庶民の日常生活の一部になったとも言える。孔



供图 / 江西客家博物院 江西客家博物院



汉语的教与学

中国語の「教える」と「学ぶ」

南昌大学组稿 南昌大学編集

翻译：韩宇 韓宇

因一次精彩纷呈的汉语教学爱上南昌，因一段古典悠扬的中国旋律结识汉语，因一次意料之外的汉语比赛爱上汉语。

ここに登場するのは、中国語に関わる人たちである。中国語の授業で南昌の魅力に目覚めた人もいれば、古き良きメロディで中国語に出会った人、奇跡の決勝進出で中国語や中国文化に夢中になった人もいる。

南昌大学国际教育学院对外汉语教师涂纳另辟蹊径，以绿色、红色、古色分别对应南昌的生态、革命与历史，讲活了南昌这座英雄城。西班牙卡斯蒂利亚拉曼查大学孔子学院学生光洁（Lucía Garcia Diaz）因中国传统古典音乐与汉语

结缘，以一曲《但愿人长久》感悟遥隔千里的中西情缘。曾经的印尼哈山努丁大学孔子学院学生陆娴虹（Rezki Awalia Ilma），如今成了该校汉语教师的“彩虹姑娘”，她在汉语比赛中披荆斩棘，练就一身中华才艺，汉语水平突飞猛进。

南昌大学国际教育学院で外国人向け中国語教師として働く塗納氏は、独自のアプローチで、南昌市の自然、革命、歴史にそれぞれ「緑色」、「赤色」、「伝統の色」を当てはめ、英雄の街で南昌にまつわる話を生き生きと語っている。スペインのカスティーリャ・ラ・マンチャ大学孔子学院の学生であるルシア・ガルシア・ディアス（Lucía Garcia Diaz）氏は、中国の伝統音楽で中国語に出会い、

「但願人長久」という歌を通じ、何千キロも離れた東洋と西洋の絆に思いを馳せた。一方、レズキ・アワリア・イルマ (Rezki Awalia Ilma) 氏は、インドネシアのハサヌディン大学孔子学院を卒業し、現在同学院で中国語の教鞭を

取っている。その中国語の名は「陸嫻虹」。「虹の少女」として親しまれる彼女は数々の中国語コンクールに挑戦することを通じて、中国語のレベルを飛躍的に向上させ、中国文化の多くも習得した。

如何介绍南昌

「教える」篇——南昌のことをいかに伝えるか

作者：涂纳 塗納

毎年南昌大学组织孔子学院学生来华参加夏、冬令营或短期汉语课程的时候，作为本地教师，我都会为来自不同国家的外国学生介绍英雄城南昌。对于大部分外国人来说，南昌并不像北京、上海、广州那么知名，所以我在介绍南昌之前，先会问学生一个问题：“南昌是什么颜色的？”然后让学生看一段我精心挑选的城市宣传片。学生一般来说会有一些初级汉语的基础，可以说出简单的汉语颜色词语，所以往往积极用自己会的词语来回答问题，即便是毫无汉语基础的同学也会用英语与我进行互动。之后，我会继续问为什么他们觉得南昌是这个颜色的，视频里的南昌给他们什么样的印象。接下来我再从绿色、红色、古色这三个方面来整体介绍南昌的生态环境、革命传统和悠久历史。我会特意提醒他们并没有一种颜色叫“古色”，中国有个成语叫“古色古香”，意思是富有古代的色彩和情调。

南昌大学では、毎年恒例、夏期・冬期合宿や短期語学研修に孔子学院の学生を招待することになっており、私は地元出身の教員として、各国から参加する留学生たちに英雄の街で

ある南昌のことに紹介することになっている。多くの外国人からすれば、南昌は北京や上海、広州ほどの知名度がないので、紹介する前にまず「南昌は何色だと思いますか」と質問しておきながら、一押し of 南昌市のプロモーション・ビデオを見てもらうようにしている。留学生たちはたいてい初級レベルの中国語ができ、中国語の色彩語なら簡単なものも言えるので、自分の言葉で積極的に答えてくれる人が多い。たとえ中国語が全く分からなくても、英語でやりとりしてくれる。ビデオを見せた後、「なぜ南昌の色はこの色だと思ったのか」「ビデオで紹介された南昌にどんな印象を持ったのか」と質問を重ねていく。そこで、「緑色」、「赤色」、「伝統の色」という3つのキーワードに沿って、南昌の自然環境や革命の伝統、長い歴史にそれぞれ話を進めていく。誤解されないように、「伝統の色」とは1つの色ではなく、「古色古香」という四字熟語のように、「古き良き色や趣」のことを指すと、丁寧に説明する。





在学生对南昌有了一个大致的印象以后，我再从地理位置、气候、语言、饮食习惯、旅游景点等方面对南昌进行详细的介绍。其实这些因素都是相互关联、相互影响的，比如地理位置决定了这个地方的气候特征，而气候特征又对当地的语言及当地人的饮食习惯产生深刻影响。在给学生介绍时，如果把这些内在的关联讲清楚，他们便很容易理解了，也会对这个地方产生极大的兴趣，希望能够亲眼去看一看。当然，我也会向学生介绍我工作的南昌大学，用我自己日常积累的照片向他们展示当代中国大学生活和南昌大学在华留学生的学习与生活情况。

南昌的全体像をある程度理解したところで、地理、気候、言語、食生活、観光名所といった点について詳しく解説する。実は、これらの点が互いにつながり合い、影響し合うことになっている。例えば、気候は地理的条件によって特徴づけられ、またその土地の言語や地元の人々の食生活に決定的な影響を与えるのだ。そのため、単に並べて紹介するのではなく、それぞれの点がいかにつながっているかを説明することができれば、理解度が高まることが期待でき、自分の目で

一度確かめてみたいと刺激されるはず。もちろん、私の勤め先である南昌大学のことも取り上げ、普段集めた写真を通じて、今時の中国のキャンパス生活や我が校の留学生たちの実際の授業風景から日常生活まで見せるようにしている。

每个城市都有自己的特点，有区别于其他地方的独特气质，它们如同外国学生了解中国的一扇扇窗。我们在向学生介绍城市的时候，一定要紧贴该城市内在的特点，切勿一味地追求高大上而使我们的讲解流于表面，应该以小见大，多讲讲学生喜闻乐见的内容，让我们的中国城市在学生的脑海里鲜活起来、生动起来。

それぞれの町にはそれぞれの特徴があり、他では見られない独自の色を持っているので、留学生にとっては中国を知るための窓にもなっている。学生たちに町のことについて紹介する際には、ありきたりの言葉をういた表面的な説明に終始することなく、より本質的な部分まで掘り下げていく必要がある。細部から全体を捉えられるよう、身近な話題からスタートし、生き生きとした中国の町の様子を伝えられたらいいと思う。

中国音楽点燃汉语梦

「学ぶ」編——中国の音楽から中国語学習の世界へ

作者：光洁 光潔

那还是在我 11 岁的时候，有一天，我坐在沙发上，一阵优美的旋律悄然传来，古老悠长，低吟浅唱，那声音仿佛是来自住着各种神奇生物的古老森林，成功勾起了我的好奇心。通过一番“明察暗访”，我才知道，那是一段中国的传统乐曲，名字叫做《琵琶语》，一种情愫在我心底滋生，难道这就是命运的呼唤吗？听完那首曲子，我对妈妈说，我想学习汉语。不久后，在我家附近的卡斯蒂利亚拉曼查大学孔子学院开始招生了，我又一次感到了命运的呼唤，或许我和汉语的缘分是上天注定的。

11歳のある日のこと。ソファに座っていると、まるで不思議な生き物たちが棲む太古の森から、古くて優しくて耳元でささやくようなメロディが聞こえてきた。好奇心に駆られて、あれこれ調べたところ、その正体が中国の伝統音楽「琵琶語」であることが分かり、まさに運命だと思わせる特別な瞬間だった。すると、母に中国語を学びたいことを伝えた。ほどなくして、実家の近くにあるカスティー

リャ・ラ・マンチャ大学では孔子学院の学生募集が始まり、中国語との出会いはただの偶然ではなく、神に授けられたもののように思えたのだ。

我学会的第一首中文歌叫做《好运来》，孔子学院的老师和我们齐聚一堂，伴随着音乐一边唱歌一边跳舞，不亦乐乎。

一曲唱罢，我感觉我的好运也降临了。学会《好运来》之后，

我对中国音乐的兴趣逐渐加深，无论是古老的还是现代的我都喜欢，比如《红马》《但愿人长久》和《光年之外》等等。于我而言，汉语是一种语言，音乐也是一种语言——一种无国界的语言。

初めて覚えた中国語の歌のタイトルは「好运来」。孔子学院の先生方と一緒に踊りながら楽しく歌った。歌い終わると、自分にも幸せが訪れようとしているような気がした。それを機に、中国の音楽に対する関心が次第に高まり、「紅馬」「但願人長久」「光年之外」など、昔から伝わってきた曲も最近の作品も私のお気に入りだ。中国語は言語の1つであるように、私にとって中国の音楽も国境を超えた特別な存在なのだ。



唱而优则“演”。中国传统乐器葫芦丝的音色深深地吸引了我，它的声音既可以悠长婉转，又可以热烈轻快。第一次拿到葫芦丝的时候，我如获至宝，这就是传说中孙悟空从太上老君那里偷走的有仙法的葫芦呀！今年中秋节，在音乐老师的悉心指导下，我在中央广播电视总台的“云上中秋”节目中献上了一首葫芦丝歌曲《但愿人长久》。所谓“千里共婵娟”，无论在天涯海角都能看到美丽的月亮，我身穿飘逸的汉服，站在古城托莱多的城墙上，吹奏着东方的优美旋律。

歌うことに自信が付いてくると、今度はステージの上で何かを表現することに。私は「ひょうたん笛」と呼ばれる中国の伝統楽器の不思議な音色に魅了された。なぜなら、滑らかな曲にも明るくて元気が出るような曲にもうまく馴染むからだ。初めて手にした時は宝物を得た気分で、笛そのものも孫悟空が太上老君から盗んだ魔法のひょうたんのように見えたのだ。音楽の先生の指導を受け、2022年の中秋節には、中国中央ラ



ジオ・テレビ局の「クラウド中秋節」という番組に出演し、「但愿人长久」という曲をひょうたん笛で披露することに。優雅な伝統衣装「汉服」を身にまとい、スペインの古都トレドの城壁から東洋の美しいメロディを奏でることで、「千里共婵娟」という言葉のごとく、世界中にどこにいても、綺麗な月を眺める喜びを実感した。

音乐是我学习汉语的起点，在学习汉语的时候，我不止一次地回想起我学习的第一首歌——《好运来》，像它名字所表达的一样，它让我想起汉语学习过程中的许多快乐时刻，让我有勇气克服学习汉语时的种种困难。

私にとって、音楽は中国語学習のきっかけである。中国語を勉強しているうちに、最初に覚えた歌「好运来」のことをどれだけ思い出しただろう。タイトルの通り、そこには数々の幸せな瞬間が刻まれており、あらゆる困難を乗り越えていける勇気を与えてくれるのだ。

实战比赛勇攀汉语高峰

「学ぶ」編——中国語コンクールで更なる高みへ

作者：陆娴虹 陸娴虹

我叫陆娴虹，参加汉语比赛的时候大家都叫我“彩虹姑娘”。为了挑战自己，我报名参加了“汉语桥”印尼的全国大学生汉语比赛。虽然我的比赛经验并不丰富，但是在孔子学院老师的帮助下，我奇迹般地闯入了全国总决赛，代表哈

山努丁大学孔子学院展示自己的风采。我在汉语老师的帮助下努力学习汉语和中国文化，每天都在练习汉语朗诵技巧，同时也在老师的帮助下练习各种中华才艺，如太极、剪纸、中国民歌、中国舞蹈等等。

私の中国語の名は「陸欄虹」。中国語コンクールに出ると、「虹の少女」と呼ばれることが多い。最初は自分自身に挑戦するために、インドネシアの大学生が参加する中国語コンクール「チャイニーズ・ブリッジ」に応募してみた。孔子学院の先生方のおかげで、大会の経験が少ない私は、決勝の全国大会に奇跡の出場を果たし、所属するハサヌディン大学孔子学院の代表として存在感を示した。先生方の指導を受けながら、中国語や中国文化を一生懸命勉強すると同時に、中国語の朗読や、太極拳、切り紙、民族歌謡、伝統舞踊といった中国文化に関わる出し物の練習にも毎日欠かさず取り組んでいた。

后来，在老师和朋友的鼓励下，我再次选择挑战自己。这一次，我报名参加了江西省外国留学生汉语大赛，和整个江西省的国际留学生同台竞技。为了比赛，我特意学习了一支中国舞《梅花泪》。这是一首唯美伤感的离别之曲，充满了温婉的愁思。这是我第一次这么认真地学习中国舞蹈，从中我体会到了很多中国人独有的情思和中国式的细腻情感。遗憾的是，强中更有强中手，最终我还是止步复赛。虽然两场比赛我都没进入决赛，但是收获却多得不得了。

その後、先生や友人たちに勧められて、江西省主催の外国人留学生中国語コンクールにも申し込み、江西省全域の留学生たちと切磋琢磨した。大会に出るにあたり、「梅の涙」と

呼ばれる哀愁に満ちた、美しくも切ない別れの歌に合わせ、中国の民族舞踊を練習することを始めた。人生初めて本格的に民族舞踊に挑戦することで、中国人ならではの感情や中国らしい繊細な感覚に共感できたような気がした。残念ながら、自分の実力が及ばず、決勝まで駒を進めることができなかったが、間違いなく貴重な体験となった。

通过参加汉语比赛，我学到了更多的汉语知识和中国文化。我由衷地觉得汉语真的很有意思，自己的汉语水平进步了很多。汉字很独特，文化很有趣。通过比赛，我也交了很多新朋友，不仅有中国朋友，还有很多和我一样来学习汉语的国际朋友。我的老师说，“没有压力，就没有动力”。确实是这样，如果没有参加比赛的契机，我想我未必能有动力去挑战和提高自己。

中国語コンクールに参加することで、中国語や中国文化に触れる機会が増えた。漢字はとてもユニークで、中国文化も大変面白く、心の底から中国語の奥深さを感じられるようになったし、中国語のレベルもだいぶ上がってきたようだ。さらに、中国人の友だちはもちろん、私と同じように中国語を学びに来た外国人の友だちもたくさんできた。先生はいつも「プレッシャーがなければ、モチベーションも上がらない」と口にしてはいるが、確かにその通りだと思う。大会出場というきっかけがなければ、絶えず挑戦し、自分自身を高める意欲もなかなか湧かないのかもしれない。孔





不识庐山真面目

不識廬山真面目(廬山の眞の姿を知らず)

作者：崔高浩 崔高浩

中文翻译：张泉 張泉

日语翻译：桥本和子 橋本和子

“不识庐山真面目”是一个汉语成语，形容“对客观事物的认识还不全面，没有认识到事物的真正本质”，在日常表达中也用“庐山真面目”来表示事物的真相或某人本来的面目。

「不識廬山真面目(廬山の眞の姿を知らず)」は中国語の成語であり、「客観的事物に対する認識がまだ部分的で、事物の眞の本質を認識していない」ことを形容している。日常の表現の中でも「廬山真面目(廬山の真面目)」という言葉を用いて、事物の真相、あるいは、人の本来の

姿を表している。

该成语出自宋代大文豪东坡居士苏轼(1037—1101)所作的《题西林壁》一诗，后半句是“只缘身在此山中”。

この成語は宋代の大文豪である東坡居士、蘇軾(1037—1101)が詠んだ『題西林壁(西林の壁に題す)』という詩の一節である。後ろには「只缘身在此山中(自分が廬山の中にいるからだ)」という句が続いている。

《題西林壁》

横看成岭侧成峰，
远近高低各不同。
不识庐山真面目，
只缘身在此山中。

『題西林壁（西林の壁に題す）』

【書き下し文】

横より看れば嶺（れい）と成り、側（かたわら）よりは峰（ほう）と成る
遠近高低 各（おのおの）同じからず。

廬山の真面目（しんめんもく）を識（し）らざるは、
只（ただ）身（み）の此の山中に在るに縁（よ）る。

【現代語訳】

正面から見れば山道通う峠、側面に回れば切り立つ峰
見る位置の遠近高低によってそれぞれ違った姿となる
廬山の真の姿がわからないのは
自分が山中にいるからなのだ

这首诗是苏轼在1084年（北宋神宗元丰七年）游览庐山后所作，
题中的“西林”指的是位于庐山西侧、名为西林寺的一座寺庙。当时苏
轼受贬，改迁汝州团练副使，前往汝州时途经九江，与友人同游庐山，
写下了这首《题西林壁》。

この詩は蘇軾が1084年（北宋神宗元豊七年）に廬山を見物した後
に詠んだもので、表題の「西林」とは廬山の西側にある西林寺とい
う寺院のことである。当時蘇軾には左遷の命が下され、汝州の団練
副使に任じられた。汝州に赴くとき途中九江に立ち寄り、友人ととも
に廬山を散策し、この『題西林壁（西林の壁に題す）』という詩を詠
んだ。

苏轼吟咏的庐山是一座什么样的山呢？庐山位于江西省，长约25
千米，宽约10千米，山体呈椭圆形。数十座山峰连绵不绝，似屏风一般，
主峰为海拔1474米的汉阳峰。周武王时期，名为匡俗（一说“匡裕”）
的贤者隐居于此，朝廷听闻后派人请他出山，但匡俗却隐匿消失，只留
下了他的空茅庐。因此，庐山被称为“有庐舍之山”。从古至今，无数
文人墨客、艺术家等各界名士前来参观，得道高僧和著名道士也在此修行。
无论在哪个朝代，庐山都是一座充满了浓厚文化氛围和雅趣的名山。

蘇軾が詩に詠んだ廬山とはどんな山なのだろうか。廬山は江西省に
ある、長さ約25キロメートル、幅約10キロメートルの楕円形の山体
をした山である。数十の峰が屏風のように連綿と連なり、主峰は標高
1474メートルの漢陽峰である。周の武王の時代、匡俗（一説では匡
裕）という名の賢者がこの地に隠棲していた。それを耳にした朝廷は
人を遣わし出廬するよう説得したが、匡俗は姿を消してしまい、あと
には彼が住んでいた粗末な茅葺の廬（いおり）だけが残されていた。





そのため、廬山は「廬（いおり）のある山」と呼ばれる。昔から今に至るまで、数えきれないほど多くの文人墨客、芸術家など各界の名士たちがこの地を訪れ、悟りを開いた高僧や著名な道士もここで修行している。いつの時代にあっても、廬山は文化の薫りが色濃く漂う、雅趣に富んだ名山である。

廬山山勢雄伟、山清水秀、风光旖旎(yǐ nǐ)、三面临江，由于周围都与江水相接，故山上常年云雾弥漫，人们很难看清楚它的真实面貌。

廬山は地勢が雄大で、山紫水明、風光明媚なところである。三方に川を臨み、あたりはどこも川の水と接しているので、山は一年中雲や霧に覆われ、廬山の真の姿をはっきりと見ることができない。

苏轼的《题西林壁》，用平易凝练的语句描绘了庐山。其中“不识庐山真面目”将哲学道理寓于诗中，后来成了一个大大家熟知的成语，越是反复咀嚼(jǔ jué)，越给人以深刻启发。

蘇軾の『題西林壁（西林の壁に題す）』は、平易で洗練さ

れた言葉で廬山を描写している。その詩の中の「不識廬山真面目（廬山の真面目を識らざる）」という句には、物事の哲学的道理が込められているため、後になってだれもがよく知っている成語となった。繰り返して味わうほどに、ひとは大いに啓発される。

我们常说“人在森林深处，就无法看清整片森林”。比如，下象棋或围棋时，在一旁观看的人比下棋的人更容易看清棋局。这也就是中文里所说的“当局者迷，旁观者清”了。作为当事者，我们有时很难全面、客观、多角度地去看待一件事。

「深い森の中にいると、森の全体像をとらえがたい」とよく言われる。たとえば、将棋や囲碁を打つときには、そばで見ている観戦者の方が対局者に比べて局面をよりの確に把握することができる。これがつまり中国語でいうところの「当局者迷、傍観者清（おかめ八目）」である。当事者たるもの、時として全面的、客観的、多角的に事に当たることが難しい場合がある。



游览在雾气氤氲 (yīn yūn) 的庐山，随着脚步前行，各不相同的山脉、山峰和名胜都在变化，而且被雾气笼罩的山势也朦胧不清。有人认为，庐山只有像屏风一样延绵不绝的山峰；有人认为，大瀑布就是庐山的全部；还有人认为，在高峰上观赏到的云雾才是庐山真正的面目。若想一睹庐山的真面目，就要从雾气笼罩的山中走出来，既要往前看，也要往侧看，或许只有这样才能勉强看到庐山的真容。假设用“横看”和“侧看”比喻视角，用“雾”比作主观和先入之见，那么要像拨开山中笼罩的浓雾一样来摆脱主观和成见，既“横看”又“侧看”，并从各个角度客观地看待不同的情况和问题，才能看到它们的真实面目。

霧が立ちこめる廬山の中を遊覧していると、足取りを進めるにつれ、それぞれ異なる山脈、山の峰や名所が次々と姿を変えて現われ、しかも霧にすっぽりと覆われた山の姿もぼんやりとかすんで見えない。ある人は、廬山には屏風

のように連綿と続く峰しかないという。また、大瀑布こそが廬山のすべてだという人もいるし、また、高い峰の上でお目にかかれる雲や霧こそが廬山の真の姿だという人もいる。もし廬山の真の姿を目にしたいと思うなら、すぐに霧に包まれた山中から飛び出し、正面からも、側面からも見る必要がある。ひょっとしたらこうして初めてどうにか廬山の本来の姿を見ることができのかもしれない。「横看（正面から見）」と「側看（側面から見）」を視角にたとえ、「霧」を主観と先入観になぞらえると仮定し、もし山中を覆っている濃霧を払いのけるように主観と先入観から抜け出したいなら、「正面から」だけでなく「側面から」も見て、またさまざまな角度から客観的に異なる状況や問題に対処しなければならない。そうして初めて真の姿を見ることができるのである。❷

二十四节气

二十四節氣

作者：雪漫 雪漫
翻译：章胤杰 章胤傑

惊蛰

啓蟄



惊蛰 是二十四节气中的第三个节气，公历3月5日至6日左右。“春雷惊百虫”，春雷始响，蛰伏于地下冬眠的蛰虫被雷声惊醒，纷纷破土而出。“春雷响，万物长”，此时气温回升快，草木都从地下面冒出来了。故惊蛰不仅代表着生机，预示着新的生命力，而且还表示新一年的春耕要开始了。正如农谚“到了惊蛰节，锄头不停歇”所说，自此，我国大部分地区都已进入春耕季节。一年之计在春耕，春得一犁雨，秋收万担粮。惊蛰来了，春忙也到了。

啓蟄は、二十四節氣の3番目のもので、毎年3月5日から6日ごろである。「春雷驚百虫」、つまり春雷が鳴り始めると、土の中で冬ごもりしていた虫たちが驚いて目を覚まし、次々と外に出てくるという。また、「春雷響いて、万物長ず」と言うように、この時期は気温の上昇が速く、草などが生えてくる頃でもある。そのため、啓蟄は活力や新しい命を表しているだけでなく、春の耕作が始まることも意味する。「啓蟄の日になれば、鋤は休まなくなる」という諺があるが、この時期に、中国のほとんどの地域ではすでに春耕が始まっている。一年の計は春耕にあり、春に雨に恵まれれば、秋の豊作が見込まれる。啓蟄とともに、忙しい春耕のシーズンもやってくる。





惊蛰时期，各地风俗不同。乍暖还寒，气候较干燥，人们易舌燥、咳嗽，所以民间有惊蛰吃梨的习俗。梨可以生食、蒸、榨汁、烤或者煮水，有顺肝益脾之功效，也有助于强体防疫。在一些地方，还有“祭白虎”和“打小人”的习俗。中国民间传说中，白虎是口舌、是非之神，每年都会在惊蛰这天出来觅食，开口噬人。“祭白虎”指拜祭用纸绘制的白色老虎：拜祭时，以肥猪肉喂之，令其饱后不再出口伤人，之后再以生猪肉抹在纸老虎的嘴上，使之不能张口说人是非。古时惊蛰当日，人们会手持清香、艾草，用来熏家里房子的四角，以香味驱赶蛇、虫、蚊、鼠等，之后逐渐演变成不顺心者拍打“小人纸”，有趋利避害、远离小人的含义，这是“打小人”的由来。

啓蟄に関する風習は、地域によって異なる。この時期は気温の変化が激しく、空気が乾燥し、口の中が乾いて咳が出やすいため、民間では梨を食べる習慣がある。梨は生で食べたり、蒸したり、ジュースにしたり、焼いたり、水煮にしたりして、肝臓や脾臓の動きをよくする効果があるほか、免疫力を高める効果もある。また、一部の地域では「祭白虎」や「打小人」という風習がある。中国の民間では、白虎はいざこざの神とされており、毎年啓蟄の日にエサを探しに出てきて、人を襲うという伝説がある。「祭白虎」とは、紙に描かれた白いトラを祭ることである。人を傷つけないように太った豚の血を腹いっぱい食べさせ、さらに虎の口に生の豚肉を塗り込み、口を閉じていざこざを言えなくする。昔、人々は啓蟄の日に家の四隅に線香やよもぎを立てて燻し、蛇、虫、蚊や鼠などを追い払っていたが、次第に「小人紙」を叩くようになり、不幸をもたらす人を追い出し、災厄を祓うという意味が込められている。これは、「打小人」の由来である。

惊蛰作为春天的节气，在中国的古诗词中也有很多表现。唐代白居易在《闻雷》一诗中所描写的惊蛰诗句最令人心动。

啓蟄は春の節気として、中国の詩にも多く書かれている。唐の白居易の詩「聞雷」には、最も感動的なものが描かれている。

瘴地風霜早，
温天气候催。
窮冬不見雪，
正月已聞雷。
震蟄虫蛇出，
惊枯草木開。
空余客方寸，
依旧似寒灰。

瘴地風霜早、
温天氣候催。
窮冬不見雪、
正月已聞雷。
震蟄虫蛇出、
驚枯草木開。
空余客方寸、
依旧似寒灰。

这首诗是说：天气慢慢变温暖，正月已听到雷声，在一阵阵的雷声中，蛰伏在地下的百虫和蛇好像被雷声叫醒一般，结束一冬的酣睡出来了。百虫醒来，万物开始复苏，也叫醒了希望……

少しずつ暖かくなり、正月にはもう雷の音が聞こえるようになった。雷が鳴るなかで、地下で冬眠していた虫や蛇は、まるで雷の音に起こされたようだ。虫たちが目を覚まし、すべてのものが蘇り始め、希望も持てるのだ、と語られている。❶

二十四节气

二十四節氣

作者：雪漫 雪漫

翻译：谢秦 謝秦

春分

春分

“春分” 秋分，昼夜平分；吃了春分饭，一天长一线。”此时，柳条抽新，莺飞草长，春色烂漫，春意浓浓，正是一年春好处。伴着春雷，“一场春雨一场暖”，乍暖还寒时，也是乱穿衣的时节。

「春分秋分、昼夜半々になる。春分が過ぎると、万物は日に日に成長する」と言われるように、柳が新芽を吹き、草地に鶯が飛来し、人々は春爛漫の季節を迎える。これはまさに一年で最高の季節であろう。また、春雷が轟き、春雨とともに気温が徐々に上昇する。すっかり暖かくなったと思いきや、気温が急転直下したりする。人々は衣替えに混乱してしまう。



春分有吃春菜的习俗。春菜，通常有香椿芽、菠菜、豆芽、春笋、韭菜五种，也有人喜欢挖荠菜或其他野菜吃。春分前后，这些菜不仅新鲜、味美，而且有益于身体。

春分に春野菜を食べる風習がある。春野菜とは、チャンチン（春椿）、ハウレンソウ、もやし、春のタケノコとニラの五種類を指す。ほかには、ミズナなどの野生の野菜も好まれる。春分のころ、これらの野菜は最も新鮮でおいしい、しかも体によいとされている。





春分时节春光明媚，正是孩子们放风筝的好时节。沐浴着春光，呼吸着新鲜空气，在一个惠风和畅的空旷之所，奔跑着放飞风筝，别有一番滋味。

春分のころ、良い天候に恵まれ、子供たちはよく凧揚げをする。春の光に浴び、おいしい空気を吸いながら、広い草地で凧を空高く揚げることは、楽しさが倍増する。



一年之际在于春，清朝诗人宋琬在《春日田家》中这样描述：

一年の計は春にあり。清の詩人宋琬の『春日田家』にこのような詩文が見られる。

野田黄雀自为群，

山叟相过话旧闻。

夜半饭牛呼妇起，

明朝种树是春分。

野田黄雀自ら群れを為し、

山の翁は相過し旧聞を話す。

夜半牛を飯わせ婦人を呼び起こし、

明朝の植樹は春分是なり。

本诗描写了春分时农忙的情景：在野外的农田中，一群群黄雀自在玩耍，山间的老农们相遇，一起闲谈从前的故事。半夜时分，人们就已经喂了牛，然后把妇人叫了起来：“明天是春分，要种树了，赶紧起来准备吧！”

この詩は春分農繁期の風景を描いたものである。田畑に黄雀は群れを成しながら飛来する。野良仕事で忙しくする翁たちは山中に集まり昔話を盛り上げる。夜中に、人々はすでに牛に餌をやり、婦人を起した。明朝春分の植樹をするので、早く起きて準備をしようというのである。❶

三清山——寻觅仙人足迹

三清山へ、仙人の跡を追い求めて

作者：杨怡 楊怡
翻译：谢秦 謝秦



求仙

仙を追い求める

在女性看来，“三清山”这三个字带着男性的潇洒，读音和形状带着简洁流畅的美丽；在男性看来，它带着东方式的细致与含蓄，仿佛大自然须要有一双轻、巧、稳、准的女性之手，才能在层层渲染之后，创造出这样的一座山。三清山蕴藏着中国道教独特的身世，被赋予了尽善尽美的诠释，每一座形态各异的山峰都有精准犀利的表达。

女性目から見ると、三清山は、その名の通りに男の格好良さを表現しているものであり、漢字の形も読み方も簡潔かつ流暢的な美を持ち合わせている。一方、男性目から見ると、三清山は東洋特有な繊細と含蓄に富み、たくみでしっかりとした女性の手が加えられて初めて作り上げられた山である。三清山は中国道教の総本山として、善美を尽くした解釈をされ、聳え立つ山の峰がそれぞれ異なる形を見せ、犀利たる言い伝えを有している。

三清山、因玉京、玉虚、玉华三峰峻拔，犹如道教所奉三位天尊列坐其巅，故此得名。“道以无心度有情”，寄生于此山之中的万物，其存在的独特意义就在于塑山峰千万种面目，以帮助游览者重新找回自己在这个世界上的位置，恰如道学中所流传的那句“一切方便是修真”。

三清山は、玉京、玉虚、玉华という三つの峰がまっすぐと聳え立っている様子がまるで道教の最高神である三天尊が頂上に座っているかのように見えたため、三清と名付けられたという。「道は無心を以って情けあることを度す」の通り、この山中にある万物は峰の変化豊かな形を作り上げるのに意義がある。と同時に、旅人にこの世に自らの居場所を見つけ出させてくれる。まさに道教に言う「一切方便は修真のためにあり」というのである。

三清山如同一位大师，教人忍辱负重、胸怀宽广。我们去攀登游览，三清山，仅仅用眼睛看是不够的，还得伸出手去触碰山峰和岩石，它们可以为我们补给精神上的能量。三清山，因为它的多面性，也因为它的桀骜形态，给这个世界带来了许多很多的寓言和传说。

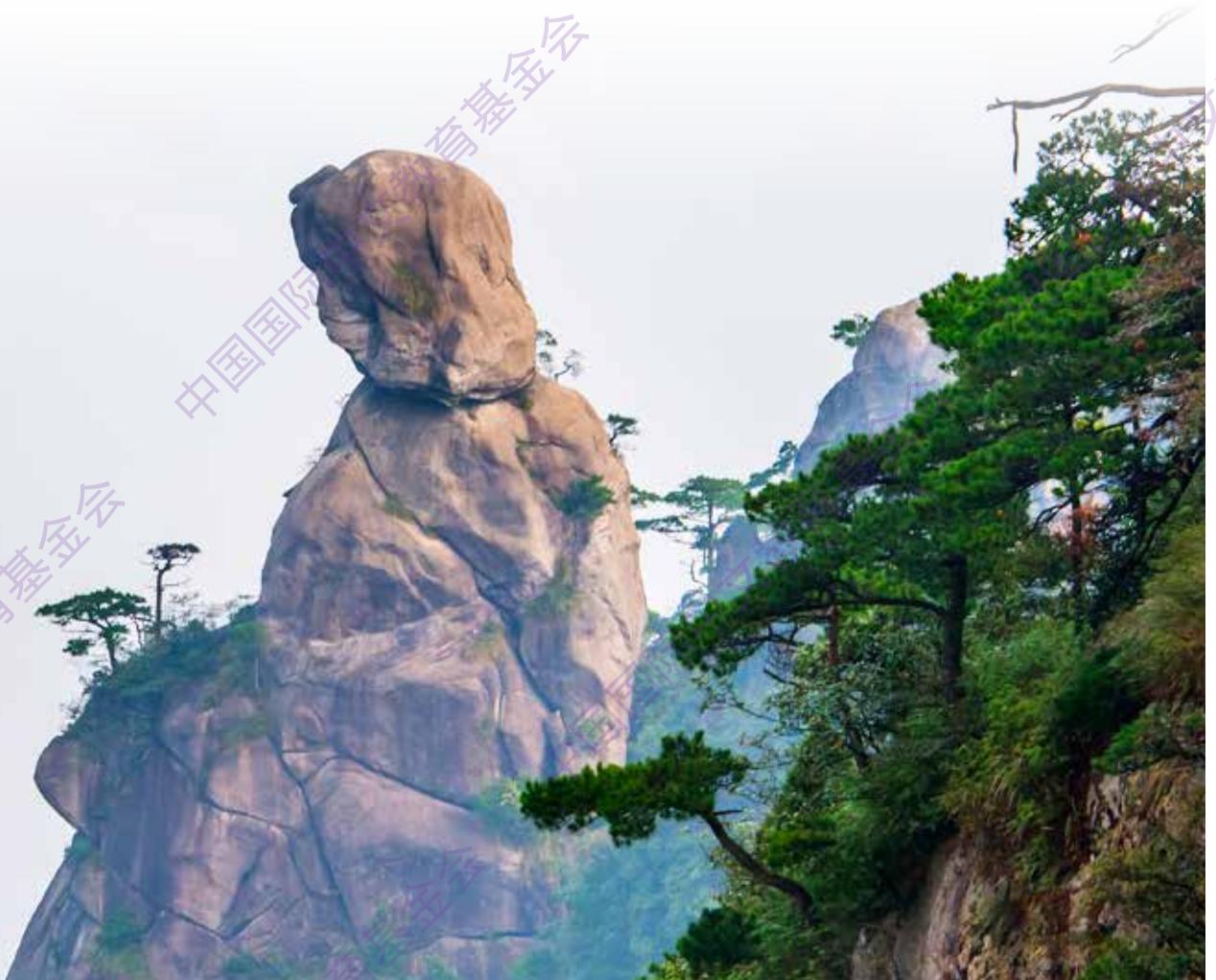
三清山は聖人のように、人々に忍耐と包容を諭してくれる。遠目で眺めるだけでなく、実際に山に登り、山体や岩に触れて初めて精神的なエネルギーをもらえるものである。多様性に富んだ強情な三清山は数多くの伝説を残してくれた。

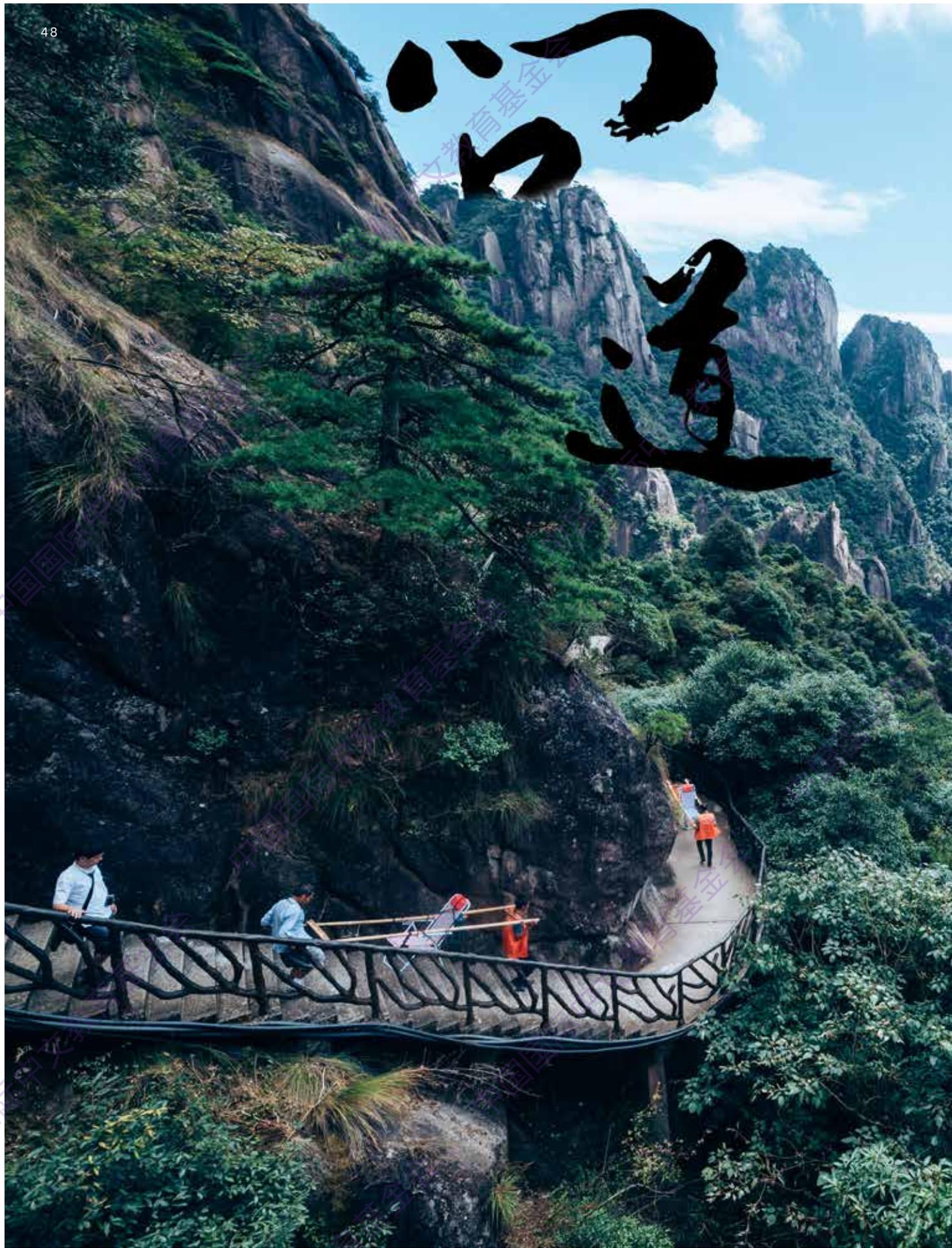
道教根植于中国本土，道学的尊道贵德、清静自守、自然无为、养生贵生、生生不已，让人们愿意相信人自身上具有强盛的生命力。道教的“养以延寿”，三清山便是表达了这样的境界。伴着三清山的奇云薄雾，仙人、玉女、神龙、灵龟……仿佛都从仙界下来迎接、考验我们这些修炼者，给予我们引领和指点。

道教は中国本土に源をもつ宗教である。尊道貴徳、清静自守、自然無為、養生貴生活、生々不已など、道教の教えは人々に人間の持つ強い生命力を信じさせてくれる。道教の仙人、玉女、神龍、靈亀は、三清山に漂う奇雲薄霧に乗り、俗世に下り、我々を仙界へと導いてくれるようである。

三清山，不曾付出努力就无法登顶，未经百转千回就看不到“神女峰”和“巨蟒出山”的形状，没有思考更不会知道这里的石头、山溪、树草、花鸟都有与众不同的魅力：人与动物、人与植物、奇峰怪石无时无刻都在发生“形”“神”之间的转化。

三清山では、努力なしには頂上に登りつめることができない。百転千回なしには「女神峰」「巨蛇出山」と出会うことができない。思考なしにはこの石や溪流、樹木や花鳥の独特な魅力を味わうことができない。ここでは、人間と動物、人間と植物、奇岩怪石は、有形と無形なる変化が止まることは知らないのである。





问道 道を問う

我去过不少道教名山，常听道人自勉：“独与天地精神往来”，“天地无为而无不为也”。

私は今まで数多くの道教の名山に行ってきた。道士が常に「人生は今を大事に度すことをしなければ、いつの世に度すつもりか」と自らを励ますのをよく耳にした。

三清山奇峰参天、幽谷千丈，是个人修行的地方。今世修身、红尘炼心，万花丛中过，唯独谁能“不染人间桃李花”？这句话出自道教白玉蟾祖师的一首词《道情》。站在三清宫的宫殿前，凝望宫门上悬挂的“三清福地”匾额，环顾四周，可见附近留有的东晋著名的炼丹家、《抱朴子》一书的作者葛洪（283-363）所掘的丹井（如今被称为“仙井”）和炼丹炉的遗迹。

三清山は奇峰が天まで聳え立ち、幽谷が千丈まで達し、修行にふさわしいところである。「世外に身を修め、浮世に心を鍛える。満開の花の世界を通りかかると、人間世界の桃李の花色に染められずにいる人間はどこにいるのだろうか」。これが道教白玉蟾祖師の詩『道情』にある言葉である。三清宮の前に立ち、「三清福地」の扁額を仰ぎ見る。近くに東晋時代の有名な煉丹家で、『抱朴子』の著者でもある葛洪の煉丹井戸（今は「仙井」と呼ばれている）と煉丹炉の跡が残されている。

漫长的历史中，三清山在地质上经历了14亿年的沧桑巨变，为海水淹没三次，达五六亿年之久。距今二千万年，三清山因处在造山运动频繁而剧烈的地带，断层密布，山体不断抬升，又经长期风化侵蚀，形成了峰插云天、谷陷深渊的奇特地貌。峰林与深渊，恰似仙风道骨，其深邃宁静、清幽飘逸的自然风格与道教文化非常契合。站在三清山上，是世外还是人间，不论你持守哪一条戒律，不论你在苦练哪种苦功，皆能找到出路，自渡迷津。

三清山の歴史は長いものである。十四億年にわたった地殻変動を経て、三清山は三度も海に沈み、五、六億年間海の底にいた。その後、激しい地殻変動により、山体が上昇し、長い年月にわたる風化現象によって、花崗岩が様々な形に削り取られ、人間や動物のシルエットを思わせる独特の景観を形作っている。三清山は優しいながら力強く、清楚でありながら奥ゆかしさがある。その深遠なる自然風景はまさに道教の教えにぴったり合うものである。ここに身を置くと、世外と俗世の分別がつかなくなり、どの戒律に従おうか、どのような試練を受けようか、それぞれ自ら人生の歩むべき道を見つけ出せるという。



悟道

道を悟る

众仙和凡人一样，对于生命，对于时间，对于“情”，都会寄托抒怀。仙传记载，形形色色的仙人，历世千年，畅游三界，游荡四方，最终都会回到山中隐居。三清山多出几分仙道气，便有了人们对成仙成道的路径和归宿的寻找。

仙人にしても凡人にしても、みな命、時間、情けに思いを寄せるものである。伝説によると、様々な仙人は、千年にわたり四方を遊歴してから再び山中に隠遁するという。三清山はこれによって仙道の雰囲気に取り込まれる場所となり、人々は仙道を追い求めるためにここにやってくるのである。

我国第一位女灸学家鲍姑（约309-343）嫁给了葛洪，成为葛洪炼丹修道的得力助手。葛洪的著作中有甚多灸法急救术，与鲍姑之高明灸术有关。鲍姑生活在这样的家庭和环境里，耳濡目染，专攻道学、医学，学有所成。她与丈夫葛洪在三清山炼丹行医，因地制宜，就地取材，以当地盛产的红脚艾进行灸治，取得了显著疗效。

我が国の最初的女性のお灸の医師である鮑姑は葛洪と結婚し、葛洪の煉丹修道の有力な助手となった。葛洪の著作にお灸による救急法が多く記録されている。それが、鮑姑の卓越した医術と大いに関わっているだろう。逆に鮑姑はこのような環境において多くの影響を受け、道学や医学に目覚ましい躍進を遂げた。葛洪とともに三清山に住みつき、地元特有な赤足ヨモギを使って灸治にあたって、著しい治癒効果を得たという。

大道难逢。毕竟，人生中最大的遗憾，不是没有成仙成道，而是在成长的时候不知怎样看待得失。或许有一天我们会顿悟：人生最重要的收获，不是功名，不是金钱，不是权力，不是盛誉，而是爱。

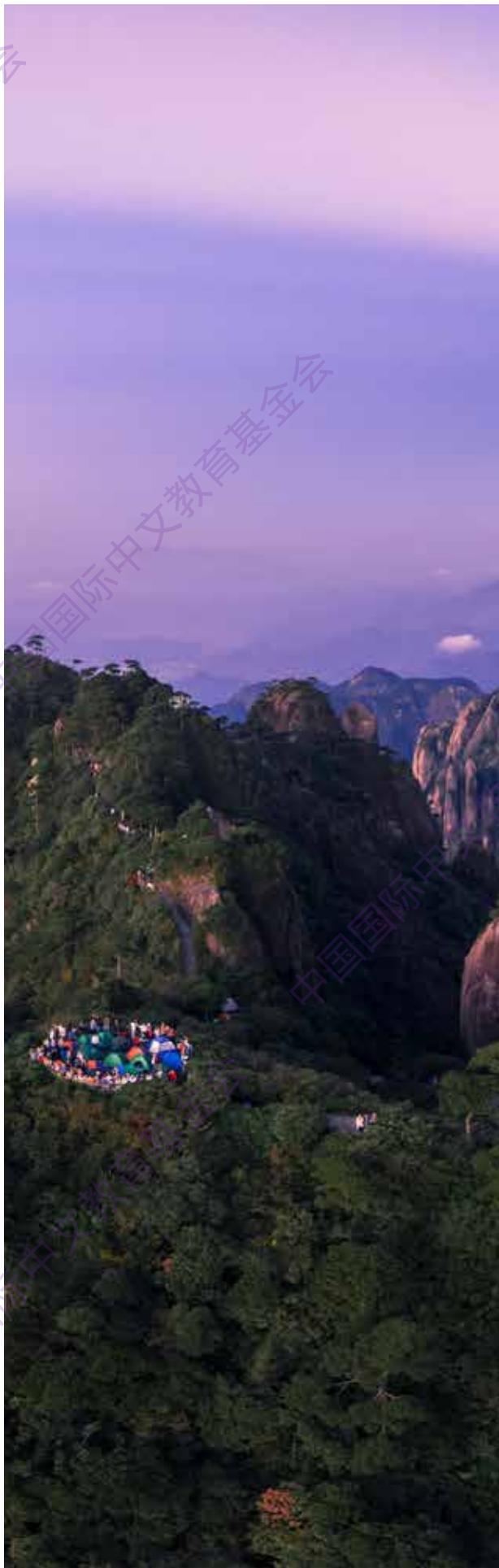
大道は珍しいもので、簡単に手に入らない。人生において、最も残念なことは、仙道を悟れないことではなく、得失をどのように扱うか心得のないことである。これからある日突然我々は悟るだろう。人生において最も大事なのは、愛であって、仕事やお金でも、権力や名声でもないということ。

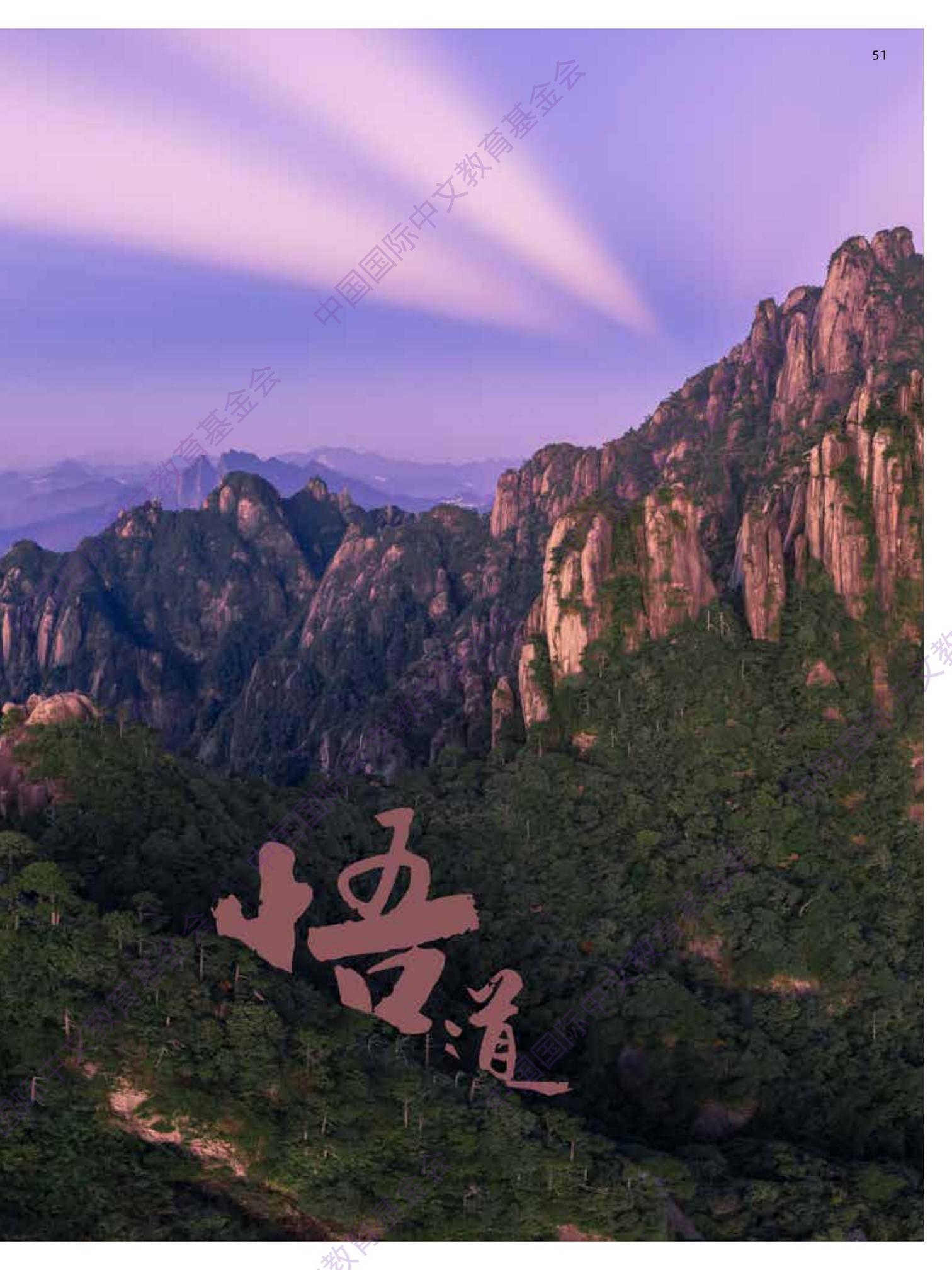
三清山给了我们一个栩栩如生的道家之梦。

三清山は、我々に生き生きとした道家の夢を見せてくれた。

那个梦的名字，或许叫“道心”，或许叫“初心”。

その夢の名は、道心とも初心とも言うべきであろう。❧





中国国际中文教育基金会

教育基金会

悟道

教育基金会

中国国际中文教育基金会

中国国际中文教育基金会

江西省景德镇市是千年瓷都，瓷器制作工艺精湛，在世界上极具影响力，吸引了世界各国的“爱瓷人”来到这里学习和生活。与国内“京漂”“沪漂”一样，来自其他国家的学生和艺术家，不远万里，出于对艺术和陶瓷制作的热爱，来到景德镇，开启一段别具一格的艺术和生活之旅，他们被称为“洋景漂”。其中有的艺术家，不仅把从景德镇学到的精湛制瓷手艺带回自己的国家，而且带着新的作品和对景德镇的热爱再回到景德镇，俨然是“洋景归”。以下就是比较有代表性的几位，听听他们因瓷结缘的故事。

江西省景德镇市は、千数百年の歴史を持つ陶磁器の都。先端な生産技術を誇る同市には、いま、世界中から磁器の愛好家たちが集まり、ここで修行し、生活している。「京漂」や「沪漂」と呼ばれる人たち（北京や上海に来て居着いた、大都市の戸籍を持たない地方出身者）のように、磁器づくりへの情熱を胸に、遙々海外から景德镇にやってきて、ここでしか体験できない芸術の旅を堪能する留学生や陶芸家がいる。彼らは周りから、「洋景漂（景德镇で生活している外国人）」と呼ばれている。さらに、そのうち、景德镇で学んだ高度な技術を自国に持ち帰ってから、しばらくしてまた新作と景德镇への愛着を持って戻ってきた人、すなわち「洋景帰（最終的に海外から景德镇に移住する人）」も少なくない。ここからは、その代表的な人物と磁器にまつわるエピソードをいくつか紹介しよう。

景德镇陶瓷大学组稿
景德镇陶瓷大学編集
翻译：韩宇 韓宇

留学生から移住者へ

从“洋景漂” 到“洋景归”



我叫罗伯特 (Robert)，来自乌干达，2015—2019 年景德镇陶瓷大学硕士。2023 年，我再次来到陶大攻读博士学位。

僕の名はロバート (Robert)、ウガンダの出身。2015年から2019年にかけて、景德镇陶瓷大学大学院で修士号を取得。2023年には同大学院の博士課程に入学。

在景德镇的这几年，我与这座城市共同成长，也收获了一个更好的自己。景德镇目前正朝着越来越好的方向发展，它已经成了我的第二故乡。

景德镇で過ごした数年間は、町とともに大きく成長した実感がある。目まぐるしく変化を遂げている景德镇は、特別な思い入れのある場所だ。

在乌干达时，我经常会在集市上看到各种十分精美的日用陶瓷。商人们告诉我，这些陶瓷全都产自中国景德镇，漂洋过海来到了乌干达。这不禁让我对中国的景德镇充满了好奇，究竟是怎样的一座城市才能够生产出如此精美的陶瓷呢？由于我的家庭成员中没有从事与陶瓷艺术行业相关工作的人，所以当我从杂志上了解到在中国有一座大学可以学习制作陶瓷，而且就在我一直憧憬的景德镇后，即便对汉语一窍不通，我还是义无反顾地来到了景德镇。

ウガンダにいた頃、市場に出かけると、上質な普段使いの磁器をよく見かけた。売り手の話では、その磁器は全部中国の景德镇で生産され、海を渡ってウガンダに来たという。それを聞いて、なぜ景德镇でこれほど上質な磁器が作れるのかと、この町に大変興味を抱くようになった。のちに、ある雑誌で中国には陶芸を学べる大学があり、しかもそれがずっと夢見ていた景德镇にあることを知ってからは、家族に陶芸に携わる人間は誰一人いなくても、中国語がさっぱり分からなくても、僕はためらうことなく景德镇に留学することを決心した。

刚抵达景德镇寻找学校的时候，我完全听不懂旁人在说什么，不过有很多热心的景德镇人帮助我，指出了学校的准确位置。当时我就觉得景德镇是一座充满爱与热情的城市。在景德镇陶瓷大学，还有许多像我一样慕名学习陶瓷制作的外国留学生。我们互相帮助、互相学习，经常在一起锻炼汉语口语。从一开始我们之间只说英语，到现在我们都用汉语沟通。这种良好的留学氛围让我感觉到我们就像是一家人，我喜欢并且十分享受用汉语交流的生活。

景德镇に来て、学校探しをしてみると、言葉が全然通じなくても、熱心な地元住民にいろいろ親切にもらった。学校の場所を教えてくれたりして、よそから来た人にも優しい印象だった。景德镇陶瓷大学には、磁器づくりに慣れて遠方から来た留学生が大勢いる。僕たちは互いに助け合い、学び合った。最初は英語しか話せなかったが、中国語の練習をよくしてから、今では中国語で会話するようにしている。まるで家族のような温かい雰囲気があり、中国語でのコミュニケーションが好きで、楽しんでいる。

景德镇是一个百花齐放的城市，不仅有来自世界各地的陶瓷艺术家，而且光是景德镇本地的著名陶瓷艺术家就数不胜数。在这种充满艺术氛围的环境里，我不仅可以学习到陶瓷技艺，还可以与这些陶瓷艺术家进行思想的交流与碰撞，从而萌发出更多新的想法与创意。如今，我在陶溪川也有了自己的工作室，前不久我还在陶溪川做了一次关于我自己陶瓷学习之路的演讲，这对于我来说意义非凡。

景德镇はダイバーシティに富んだ町。有名な陶芸家と言えば、地元だけでも数えきれないほどいるし、世界中からも数多く集まっている。このような芸術的な環境に囲まれ、磁器づくりの技法を学ぶだけでなく、陶芸家との交流の中で、新しいアイデアや発想がどんどん生まれてくるのだ。僕はいま、陶溪川にアトリエを持っているが、先日そこで自分に大きな意味を持つ出来事として、これまでの陶芸人生を振り返る講演を行った。

毕业后，如果回到乌干达，我将会开设自己的工作室，让本地人都来学习陶瓷制作。我会告诉他们，这是我在景德镇学习到的技艺，如果想要学习到一流的陶瓷技艺，必须到景德镇，亲身感受千年瓷都生生不息的窑火精神。景德镇是我除乌干达以外，驻留时间最长的地方，以至于我现在去其他城市，不到两三天，我就会怀念起景德镇的人、天气和食物，就想快点“回家”。

卒業後、ウガンダに戻ったら、現地の人たちが陶芸を学べるアトリエを開くつもりだ。僕が景德镇で修行した成果を見せ、本格的に磁器づくりを身につけるのなら、「陶都」の景德镇に来て、千年続く職人魂を実感したほうが良いと伝えたい。生まれ故郷のウガンダを除けば、最も長く滞在した場所は景德镇。いま、ほかの町に行っても、2、3日もしないうちに、ここの人々や天気、食べ物が愛しくなり、一刻も早く「我が家」に帰りたいものだ。

请大家欣赏一下我的作品。

どうぞ拙作をご覧ください。

中间比较高的、具有混搭风格的瓷器代表景德镇陶瓷大学主教学楼，是我和同学们一起上课的地方。瓷器底部为白门蓝墙、黄框红窗，清新淡雅而富有童趣；中部是黑色线条框住的亮黄色圆以及上方苞谷状图饰，象征着同学们学业有成；上部堆叠了玉壶春瓶状瓷器，饰有青绿色苹果及枝叶，寓意祝福平安。

まず、真ん中にある一番高いのは、同級生と一緒に授業を受ける景德镇陶瓷大学の本館をモチーフにしたもの。底には、フレッシュな感じが残せるよう、白い扉に青い壁、黄色の枠に赤い窓が描かれた。中央には、黒い線で縁取られたライトイエローの円に縁起物のとうもろこしが飾られ、学業成就を願う。上に行くと、玉壺春瓶の形をしたものが重なり、青リンゴとその枝葉と合わさって、平和祈願という意味が込められている。

旁边的四个瓷瓶象征着来自五湖四海的同学们相聚成为一家人。上部饰有连续的叶状图案，含有幸运的意义；中部连续的三角形蓝色图案，与底部的相似图案相呼应，并绘有具流动感的黄色线条，造成了流釉的感觉；底部棕色锯齿状图案象征具有质朴和踏实特质的泥土，与之互补的蓝色图案代表博大宽广的海洋。这些图案寓意同学们踏实、宽容和青春等特质。



一方、その横にある4つの花瓶は、世界中から集まった学生が一つの家族になることを象徴する。それぞれの花瓶の上部には、幸せの意味を持つ葉形模様、中央には色絵釉を使ったように、青の三角形に黄色の線を描き、またそれに合わせて、下部には茶色のギザギザ模様と青で、素朴な土と包容力を持つ海を表現した。これらの模様から、勤勉で寛容で元気溢れる大学生の姿が読み取れる。



蓝色的圆环状装饰寓意和谐统一，代表了不同文化背景的同学们友好和谐地相处。

また、円の形をした青の飾りは調和ができていて、つまり異なった文化的背景を持つ学生たちが仲間となり、楽しくしていることを表している。



这两件陀螺状的瓷器代表教室，主要以多彩的非洲面具图案作为装饰，象征着景德镇陶瓷大学国际学院的文化多样性。

次の2点の作品のテーマは「教室」で、コマの形をしている。アフリカを代表するお面のカラフルなデザインが施され、文化的多様性を持つ景德镇陶瓷大学のことを表している。





我叫麦迪 (Mahdy)，来自埃及，景德镇陶瓷大学2019级硕士研究生，中国陶瓷考古专业。

こんにちは、エジプト出身のマディ (Mahdy) だ。2019年に景德镇陶瓷大学大学院修士課程に入学し、中国の陶磁器の考古学を専攻している。



何物文
心即
就是最好的美德。

アラビア文字で「忍耐(幸福の鍵)の聖書」



今年是我在中国学习的第四年。我对中国的历史和文化很感兴趣。中国是世界的瓷都，中国古代的穆斯林会把阿拉伯文写在陶瓷上，从国内外博物馆展出的一些明代青花瓷上可以看到阿拉伯文。我正在学习艺术创作，把自己对艺术的理解用阿拉伯语在青花瓷上表达出来。我希望能把我在这里学习到的知识以及陶瓷文化带回我的家乡，让更多的埃及人了解中国的陶瓷文化。

留学生活は今年で4年目となるが、普段から中国の歴史と文化に大変興味を持っている。磁器発祥の地だけあって、中国在住のイスラム教徒は古くから陶磁器にアラビア文字を描くことがあり、国内外の博物館で展示された明の時代の「青花」と呼ばれる染付磁器の一部からもアラビア文字の存在が確認できた。磁器づくりの修行をしている僕は、「青花」の上にアラビア文字で自分の世界観を表現できるようになりたい。ここで学んだ技法や陶磁器の文化を故郷に持ち帰り、より多くのエジプト人に中国の陶磁器文化を理解してもらいたいと考えている。

埃及与中国之间的文化交流从汉代就开始了，我想把这种交流延续下去。左侧是我的其中一个作品。

エジプトと中国の間では、漢の時代から文化交流が行われてきた。今後とも続けられるよう、少しでも力になりたい。では、愚作ではあるが、一部ご紹介しよう。

我叫戴安娜 (Diana Williams), 来自澳大利亚。
私はオーストラリア出身のダイアナ・ウィリアムズ
(Diana Williams)。



・戴安娜在景德镇雕塑瓷厂工作室创作
【写真】創作中のダイアナ氏（景德镇彫刻磁器工場内のアトリエにて）

我2004年来到景德镇，结识了工艺美术大师刘远长。他免费为我在景德镇雕塑瓷厂提供了一间工作室，他负责陶瓷造型设计，我负责瓷胎彩绘。我们的作品在2004年景德镇国际陶瓷博览会上展出，获得了意想不到的成功。第二年，刘远长大师邀请我再来景德镇进行艺术创作。我爱上了景德镇这座古老的城市，习惯了这里的食物、这里的人、这里的艺术氛围，完全融入了这座城市。

初めて景德镇を訪れたのは2004年のこと。そこで、磁器づくりの名人・劉遠長先生に出会い、先生のおかげで、景德镇彫刻磁器工場内にあるアトリエを無料で使わせていただいた。先生のデザインしたものを私が実際に描くと、二人三脚の形で磁器づくりを始めたところ、2004年の景德镇国際陶磁博覧会に出品されたものは予想以上の反響を呼んだ。翌年、劉先生から再び招待を受け、この歴史ある町、食べ物から

人々、芸術的な雰囲気まで馴染むようになり、完全に魅了されたのだ。

景德镇完整的陶瓷产业链和工匠们高超的技艺让我着迷。作为中国千年瓷都，这座城市有近10万名陶瓷从业者。每年，我都要在景德镇待上五个月左右。这里有我的朋友、梦想和事业。2008年，我在景德镇买了一套公寓，我可能是第一个在景德镇拥有房产的外国人，不再是“洋景漂”了。

景德镇には陶磁器産業クラスターを有し、高度な技術を持った職人も多く、本当に恵まれた環境だと思う。千年の「陶都」だけに、陶芸に携わる人間は10万人近くに及ぶ。私の友人も夢もキャリアも全部ここにあるので、一年のうち、平均5か月ほど滞在している。景德镇で不動産を持つ最初の外国人かどうか定かではないが、2008年にはマンションを購入し、本物の「移住者」となった。



・戴安娜来景德镇前的陶瓷绘画作品
【写真】ダイアナ氏が景德镇に来る前の絵付け作品



• 戴安娜、刘远长及其合作创作的作品留影
【写真】ダイアナ氏、劉遠長氏およびその共同作品

如果没有来到景德镇，我将只是澳大利亚一名日复一日在瓷上作画的普通画师。在景德镇，刘远长老师不仅教授我雕塑技艺，还带我结识了很多陶瓷艺术名家，让我有机会经常和艺术大师们交流技艺和创作心得。我喜欢仔细观察、用心感受这里的艺术氛围，在景德镇的文化滋养下收获了很多创作灵感，同时也和这里的人结下了深厚的情缘。在刘远长老师的悉心指导和景德镇陶瓷大学张嗣萍等老师的帮助下，我从一个从未接触过瓷泥的瓷上画师，成长为熟悉陶瓷泥料、不同成型制作、不同雕塑技法、不同颜色釉种应用、窑炉烧制要求和釉上彩绘装饰的艺术家。

景德镇来着的话，在澳大利亚每天像往常一样，磁器上画一介的职员就结束了。景德镇来着的话，刘远长先生从雕刻的事情直接教给我，或者介绍有名陶艺家们，让我有机会从普通开始交流的机会多。我是元々观察するのが好きで、この芸術的な雰囲気を心から楽しんでいる。この最高の環境からいっぱい刺激を受け、作品のインスピレーションが湧き、地元の人々とも深い絆を持つようになった。劉先生の丁寧な指導と、景德镇陶瓷大学の張嗣萍先生などのご協力のもと、私は陶土に触れたことのない絵付け師から、陶土をはじめ、各種の成型技法・彫刻技法、色別の釉薬の使用・窯焼きの方法、絵付け・装飾まで精通する一人前の陶

芸家に大きく飛躍することができた。

在澳大利亚，我无法想象有五个人帮我一起创作。而在景德镇，我做到了，还实现了在博物馆展出自己作品的梦想。我的作品先后在美国、澳大利亚、瑞士、韩国、黎巴嫩等地的博物馆和画廊展出。

オーストラリアにいる時、制作助手が5、6人付くことは絶対に想像できない。景德镇に来てはじめて、それが可能になり、博物館に自分の作品を出展する夢も叶った。その他、アメリカ、オーストラリア、スイス、韓国、レバノンの博物館やギャラリーでも展示されたことがある。



我很喜欢中国的传统文化。在景德镇学习与创作生活的14年里，我的艺术创作由平面绘画转到立体雕塑，在创作中会有意识地把中西方文化、技法融合起来，形成自己独特的风格。我把中国的象征主义引入我的作品。我使用竹子、龙、凤凰和莲花，用中国文化中的特有符号来表达和平。我厌恶战争，于是通过雕塑艺术把内心的想法表达出来。这些作品将新生命的诞生、成人后的命运、经历战火而死亡、孕育新一代、历劫后的“来世”组合到一起，以雕塑艺术形式呈现孕妇、婴儿和大炮，反映了战争与生命之间力量的比拼。

私は中国伝統文化の大ファンだ。景德镇で14年間修行し、創作活動を続けているうちに、創作の中心が2次元の絵付けから3次元の彫刻にシフトし、西洋と中国の文化や技法を意識的に統合することで、独自のスタイルを模索してきた。例えば、中国的象徴主義を取り入れ、竹、龍、鳳凰、蓮など中国文化ならではのシンボルを用いて、平和を表現すること。戦争が嫌いなので、彫刻を通して、素直にその気持ちを伝えた。作品には、新たな命の誕生、大人になってからの運命、戦争による死、次の世代への継承、幾多の苦難を乗り越えて迎えた「来世」などのテーマが交錯する。彫刻の技法で、妊婦や赤ん坊、大砲などを表現し、戦争に負けない命の輝きを感じてほしいと思う。

2018年5月18日，我的 Highfire: Motherhood 系列作品在景德镇中国陶瓷博物馆展出。展览以尖锐的炮弹为艺术创作的主题，以雕塑艺术形式呈现了孕妇、婴儿和大炮，我希望以此唤醒世人对和平的珍惜。

2018年5月18日、「Highfire: Motherhood」と題する私のシリーズ作が景德镇中国陶磁博物館で展示された。鋭い砲弾をモチーフにした作品の中で、彫刻の技法で妊婦や赤ちゃん、大砲のことを捉え、すべての人に世界平和の大切さを改めて認識してもらいたい次第だ。

14年の岁月让我早已把景德镇当成了自己的家，从“洋景漂”变成了“洋景归”。景德镇就像我的第二故乡，我和一群热爱陶瓷、热爱中华文化的人在中国“因瓷筑缘”。愿世界永远和平美好！愿陶瓷艺术文化与传播情缘永续！

14年の歳月を経て、景德镇は「留学先」から「移住先」となり、私にとっての第二の故郷となった。ここで陶磁器や中国文化を心から愛する人たちに会い、結ばれることに感謝し、世の中がいつまでも平和で美しいものでありますように、陶芸文化と国際交流が末永く続きますようにお祈りしたい。孔



・戴安娜个人系列作品在景德镇中国陶瓷博物馆展览

【写真】景德镇中国陶磁博物館に展示されるダイアナ氏のシリーズ作

雅溪悠久的流れ、 客家いにしえの旅



百年雅溪 百年客家

作者：刘慧玲 劉慧玲
翻译：小林干夫 小林幹夫

客家人原是古代中原汉人。千百年来，出于战乱、饥荒以及政策原因，客家先民几经波折，辗转南迁，先后迁徙到江西、福建、广东以及世界 80 多个国家和地区。“客而为家”的客家人从与当地居民抗争到逐步融合，进而扩散成为世界上分布广阔、影响深远的民系之一。一谈起客家人，人们首先想到的便是广东梅州、福建龙岩等地。但据统计，江西省的客家人数仅次于广东省。地处江西西南部的赣州市，客家人数更是占据了全市人口的 95% 以上，是客家人的主要聚居地。据记载，赣州客家人源自唐朝安史之乱后的第二次人口大迁徙。赣州地居赣江源头，藉舟楫之利，北扼中州，南抚百粤，东接八闽，西连三湘，加之地势开阔、土地肥沃，成为接纳南迁中原汉人的重要一站。广东、湖南、福建等地的客家人很多都是以赣州为起点再次迁移的。因此，赣州也被称为“客家的摇篮”

客家人は古の時代中原にいた漢人である。数千年に渡り、戦乱や飢饉、彼等をめぐる政策が原因となり、客家の先人は紆余曲折を経て南方に移動し、相前後して江西、福建、広東の各地域、及び世界80か国以上の国々に移り住んだ。「旅を棲み処とする」客家人は移り住んだ先で原住民との抗争を経ながらも次第に融合し、更には世界中に拡散したが、その分布面積の広さや当地に与える影響力から見ても世界屈指のエスニックグループの一つである。客家人と言えば人々は先ず、広東省梅州や福建龍岩などの地を思い浮かべるが、統計によれば江西省の客家人口は広東省につぎ、江西省南部に位置する赣州市では、実に人口の95%以上を客家人が占めており、彼らの主要な集中居住地となっている。史料によれば赣州客家人は唐時代、安史の乱を契機に生じた二回目の民族大移動がその源流とされる。赣州では赣江源流部に棲み付き、水運の利を生かし、北は中州（河南）、南は百粤、東は八闽（福建）に接し、西は三湘（湖南）に連なる地を覆うに至り、開けた地勢と肥沃な土地は中原から南下した漢人を受け入れ得る重要なプラットフォームとなった。広東、湖南、福建等の地域に住む客家人の多くは赣州を起点として、更に移動していったグループに属するので、赣州もまた「客家の揺り籠」と称されるのである。

莊園 / 蔡仲鳴 陳維鵬



迁徙而来的客家人，依姓氏建村，聚宗族而居。散落在赣州市各县区大大小小的客家古村落是客家文化最全面的缩影，如赣县的白鹭村、龙南县的关西村、全南县的雅溪村等等。这些古村往往为同姓宗族的聚居地，选址在依山傍水、风水绝佳之地。为了抵御外患，古村的民居建筑以被誉为“东方古罗马城堡”的围屋为主，围屋墙体或采用夯土砖墙，或采用花岗岩垒制而成，坚固无比；房屋内部及楼层构架则主要使用木制材料，高达三四层楼；围屋整体呈圆形或方形，对外封闭、对内开放，具有极强的防御性和实用性。村内还建有用于祭祀与集会的宗氏祠堂，甚至学堂书院。村民们说着保留有汉语古音韵的客家方言，制作着客家人独特的美食饮品——酿豆腐、梅菜扣肉、三杯鸡、糯米酒、擂茶……闲暇之余，还进行着诸如唱山歌、唱采茶戏、吹唢呐等文艺活动，生活自给自足、岁月静好。

移住してきた客家人は同姓で村を形成し、宗族が集まって住んだ。赣县の白鹭村や龍南県の関西村、全南県雅

溪村の如く、贛州の各県や区に散在する大小様々な客家の古い村落は、客家文化の全体像を最も良く反映した縮図であると言える。これらの古い村落は往々にして同姓宗族からなる集合居住地であり、山を背にして河を望む風水抜群の地である。他所からの侵略を防ぐ為に造られた民家の建築は、「東方の古代ローマ城塞」の誉も高く、主に軒を連ねて囲む形式であり、集合住宅の外壁は土を突き固めた煉瓦壁で覆うか、花崗岩を積み上げて作られ、比類のない堅牢さを持つ。部屋の内部と階段の骨組みは主に木材が用いられ、高いものでは三階建て、四階建てとなっている。寄棟は円形か方形に形作られ、外側を遮断し内側が開放されており、非常に高い防御力と实用性を兼ね備えている。村の内部には祭祀や寄合に供される宗族の祠堂のほか、学校や書院までもが設けられている。村民は中原にいた頃の発音を残す客家方言を話し、客家人独特のご馳走である自家製豆腐、梅菜扣肉（梅干菜の蒸し

肉）、三杯鸡（鶏肉炒めもの）、糯米酒、擂茶を手作りし食して飲む。余暇には山歌や茶摘み歌を歌い、チャルメラを吹くなどの芸事に興じ、自給自足の生活を送り、年月は穏やかに過ぎて行く。

位于江西省全南县的雅溪古村便是一个浓缩了客家文化方方面面、蕴藏了深厚历史底蕴的客家村落。有着百年历史的雅溪古村，是元末明初（公元1370年左右）由江苏金陵陈氏兄弟迁居此地后建造而成，全村姓陈。村庄现仍完好地保存着一座建于清朝咸丰年间（1856年）的土围，一座建于光绪年间（1885年）的石围，以及一座后世建造的纪念陈氏家族的祠堂。在这里，历经百年的雅凤围屋，庄重肃穆的陈氏祠堂，味美香醇的客家擂茶，无不彰显着浓浓的客家文化。

江西省全南県に位置する雅溪古村は客家文化を余すところなく凝縮し、奥深い歴史を色濃く映す客家の村落である。悠久の歴史を持つ雅溪の村は、元





13 间大小相仿的房间彼此连接。每个房间的内墙上都开有一个小小的窗口，用于窥探外面动静。透过窗口看去，外面如今是一个焕然一新的世界，而围屋里则依旧凝结着过去岁月的痕迹，远道而来的陈氏家族曾在这里起居生活、繁衍后代。



供图 / 尹其奇 尹其奇

末から明初（西暦1370年頃）、江蘇金陵（南京）に居た陳氏の兄弟がこの地に移住して以来建設され、全村民が陳姓を名乗る。村には清朝咸豊年間（1856年）に建設された土壁や、光緒年間（1885年）に設けられた石壁が今も完全な形で保存されており、後世に建造された陳氏一族を祈念した祠堂も存在している。ここでは、悠久の歴史を伝える雅鳳寄棟囲いと荘厳な雰囲気包まれた陳氏祠堂があり、美味芳醇な客家擂茶が香り、濃厚な客家文化が花開いている。

远远望去，一幢石砌的方体建筑映入眼帘。没有华丽的瓷瓦粉饰，只有古朴的白墙黑瓦。雅凤围，是赣南地区典型的方形石围，整体长宽约20米，内部屋廊共有四层，内部天井稍小，素有“小家碧玉”之称。围屋的墙面因年久日晒雨淋而显得伤痕累累，唯有那四周翘角屋檐才使它保持巍然独立的雄姿。四周屋檐下的炮角，是曾经抵御外敌的站台。推开厚重的木制三重门，一股古老的气息扑面而来。走进去，一个小小的铺满石子、长满青苔的庭院出现在眼前。庭院中有一口古井，探头望下去，井中倒映着一片蔚蓝明净的天空。井边有一尊石刻的狮子形脸盆底座，雕刻细致，栩栩如生。沿着楼梯走上去，绕着房廊走一圈，



遠くを見やると石積みの方体建築物が目に入る。煌びやかな磁器の装飾も無く、古びて質素な白壁と黒い瓦造りである。雅鳳寄棟は贛南地区に見られる典型的な方形の石壁で囲われ、全幅は約20メートル、内部の家屋は4階作りで、僅かに設けられた天窓はかねてより「小家の碧玉」と称されている。寄棟の壁面は長年陽に晒され、雨に浸された傷跡が無数に刻まれているが、四方の戻った屋根にのみ巍然として独立する雄姿が見られる。四方の軒下にある銃座は、かつて外的に抵抗した際の堡壘である。重厚な木製三重門を押し開けると、いにしへの息吹が一気に押し寄せて顔に当たる。入って行くと、敷き詰められた石を青苔が覆う小さな庭園が目前に現われる。庭園には古井戸が一つ口を開けていたので、首を伸ばして覗き込んでみると、井戸の中には紺碧の澄み切った空が映り込んでいた。井戸の縁には石を刻んで作られた獅子形の洗面台があり、精緻な彫刻が施され、生き生きとして今にも動き出しそうだ。階段に沿って上がり廊下を一周すると、大小十三室の同じ形をした部屋が互いに繋がっている。各部屋の内壁全てに外界の動静を覗き見るための小さな窓が穿たれている。覗き窓から眺めると、外側はまるで一新されたかのような世界に見え、かたや寄棟は古の姿そのままに、過ぎ去った歳月の名残が凝縮されており、遠路遙々やってきた陳氏一族がここで起居し、生活を営み、後世の繁栄に至った課程を見るようだ。

客家人重视血缘关系，每个宗族都会建立祠堂庙宇供奉祖先。因此，祠堂是客家文化中很重要的一部分。陈氏祠堂位于整个村子的中心，是陈氏家族举办红白喜事、祭祀祖先和举行其他活动的场所。朱红色大门的正上方悬挂着一块匾额，镌刻着“陈氏祠堂”四个大字。高高的门槛，一不小心就会让前来参观的人给祖先行个跪拜礼。走进去，入眼的是一个很深的祠堂，分为外堂和内堂。外堂是露天的庭院，中间摆放着一个大鼎，用于插香；内堂是安放祖先牌位的场所。内堂中有两排红色的大柱子，抬头细看，房梁上有精美的龙纹雕刻，蜿蜒盘旋，腾空欲飞。堂内墙上刻着家族祖先的名字和事迹，还有为建造这座祠堂捐款的功德之人的名字。伫足祠堂内，那种庄重肃穆的氛围让人不由得对这个家族肃然起敬，耳畔仿佛传来陈氏祖先的谆谆教导。

客家人は血縁を重んじ、各宗族は皆、祠堂廟を建設し祖先を祭るので、祠堂は客家文化の中でも大変重要なものである。陳氏の祠堂は全村の中心に位置し、陳氏の家族が行う婚礼葬式や祖先の祭祀、その他の活動を行う場所として供される。朱色の大門の真上には扁額が掲げられ、「陳氏祠堂」の四文字が大きく彫り込まれている。高々とした敷居は気を付けていないと躓き、見学を訪れた人々は陳氏に膝まづいてお参りする事となる。入って目に映るのは、深々とした場所に鎮座する祠堂と、外堂と内堂である。外堂は露天の前庭にあり、その中程に大きな鼎が置かれ、線香を差すのに用いられる。内側の御堂は祖先の位牌を安置する場所となっている。内堂には赤く塗られた二本の柱が並び、振り仰いで注意深く見ると、棟梁には優美な龍の模様が彫り込まれ、長々と渦を巻くその姿はまさに空に舞い上がりんとしている。堂内の壁面には一家の祖先の名前と事績、この祠堂を建造するにあたって喜捨した人々の功德を讃えるための氏名も刻まれている。祠堂の中で立ち止まっていると、荘厳で厳肅な空気に包まれ、いつしかこの家族に対し、肅然と尊敬の念が湧き出



て、耳で陳氏の祖先が諄々と教え諭す声が聞こえてくるかのようだ。

信步在雅溪古村，寻得一家茶馆，品尝一碗中国最古老的茶饮之一——客家擂茶。客家人热情好客，以擂茶待客是最普遍、也是最隆重的传统礼节。无论是婚嫁庆典，还是亲朋好友到访，即请喝擂茶。擂茶的制作者将配制好的茶叶、芝麻、花生、炒米、薄荷等擂茶材料放入陶制擂钵中；再用擂棍在擂钵中不断春捣、研磨，将所有材料制成茶泥；最后再将擂好的茶泥倒入另一个干净的大瓷碗中，冲入沸水，适当搅拌，一碗擂茶就制作完成了。细细品茗，有茶香、芝麻香，还有淡淡的薄荷香。擂茶的饮用，可配以米果、花生等小食，也可以就炒饭、炒菜一起食用，既可解渴又可充饥。喝一口茶，吃几粒花生米，忍不住再接着喝第二口、第三口……难怪有人说，喝客家擂茶，一口试饮，口舌生津，满腔留香；二口深饮，神气仙人，通体舒畅；三口再饮，欲罢不能，碗空再续。香醇的擂茶，正如热情淳朴的客家人，令人难以忘怀。



供圖 / 刘军伟 劉軍偉

気の向くまま雅溪古村を歩いているうちに一軒の茶館を見つけたので、中国最古の飲茶法の一つである客家擂り茶を味わった。客家人は情熱的に客人をもてなす人々であるが、擂り茶のおもてなしが最も一般的であり、かつ、最も盛大に行われる伝統儀礼でもある。それが婚礼の祝い事であろうが、親しい友人の来訪であろうが、擂り茶を勧めるのである。擂り茶を作る者は配合材料の茶葉、胡麻、落花生、煎り米、薄荷等を陶器のすり鉢に入れ、擂りこぎ棒で中身を突いては砕き擂りおろし、終いにはお茶のペーストとなる。最後に擂り終えてペースト状になった茶をきれいな大振りの瀬戸物茶碗に入れ、湧いた湯を注ぎ、程よくかき混ぜると一杯の擂り茶が完成する。クンクンと嗅いでいると茶葉、胡麻にうっすらした薄荷の香りが鼻に届く。擂り茶の当てには米菓子や落花生などのスナックが用いられるほか、チャーハンや焼き物と共に食され、乾きを癒し、飢えを満たしてくれる。お茶を一口啜り、数粒の落花生を囓っていると、二口目、三口目を啜らずにはいられなくなる。客家の擂り茶を飲めば、一口味見をただけで口の中は唾液で満たされ、胸いっぱい香りが残る。二口目をゴクリと飲み込めば、意気揚々としてまるで仙人の如く、体全体が軽快で心地よくなり、三口目に至れば止めたくても止められず、茶碗が空になっても飲み続けたい気持ちは押さえられないとは良く言ったものだ。芳醇とした擂り茶は、まさに熱く純朴な客家人のようであり、忘れる事ができない。



访一处百年古村，寻一方客家文化。千百年来，客家先民从中原向外，前后经历了五次大迁移，足迹早已遍布世界各地。然而不管身在何方，共同的语言文化、民俗信仰总将每一位客家人紧密地连接到一起。远来是客，相信来自世界任何一个角落的客家人，都能在雅溪村感受到宾至如归。

この度は悠久の歴史が流れる古の村を訪れ、客家文化を訪ねた。古来より客家の先駆けとなった人々は中原から外側に弾き出されて移り住み、相前後して五回の大移動を経ているが、その足跡は早くも世界各地に記されている。自分が何処にいるかに関わらず、共通の言語文化と風俗習慣、信仰はいつも客家人一人一人をしっかりと繋ぎ止める。遠方より訪ね来る者は皆客人であり、世界のどこから来た客家人であれ、雅溪の村では自宅に帰った気持ちになるだろう。孔



中国传统书画装裱工艺中的

——以张名倬山水画装裱修复为例

修复技术



中国の伝統的書画表装工芸 における修復技術

——張名倬の山水画の表装修復
を例として

作者：柳东溶 柳東溶

翻译：三好雅彦 三好雅彦

传 统书画装裱工艺起源于中国，是一种历史悠久、集保护性与艺术性为一身的书画保护技艺。传统书画作品多选用纸或绢为材料，有着强度低、易老化的特点，因此不利于日常保存、展示和欣赏。传统书画装裱工艺大体可分为书画修复与装裱两项内容，修复指将有污染、残破等病害的书画作品进行复原；装裱指将书画作品与纸或丝绸通过小麦淀粉制成的糨糊拼接、粘合，再加以裁剪形成屏风、手卷、书页、立轴、镜片等不同形式。

伝 統的な書画の表装工芸の起源は中国にあり、歴史が長く、保護の役割と芸術性を兼ね備えた書画保護の技術である。伝統的な書画の作品の多くは紙または絹を材料としており、強度が低く、劣化しやすいのが特徴で、日常の保存、展示、鑑賞には適さない。伝統的な書画の表装工芸には大別して書画の修復と表装の2つがあり、修復は汚れや破損といった損傷がある書画の作品を復元することを指し、表装は書画の作品と紙や絹を小麦のでんぶんで作ったのりをつなぎ、貼り合わせ、さらに裁断して、屏風や巻物、書物のページ、掛け軸、額縁などのさまざまな形式のものにすることを指す。

在 文物保护理论与技术愈发成熟的今日，一般“书画装裱”单指上述将书画作品加工为不同形式的传统工艺，而修复的概念也逐渐扩展甚至独立出来。按照文物保护基本原则中“不改变原状”的要求，如今对于未经装裱且存在病害的书画文物，一般只需进行修复；而已装裱好的书画文物出现病害后，除对其修复还需重新装裱。如今，故宫博物院、南京博物院等全国各级博物馆珍藏的无数传世和考古发掘获得的珍贵书画作品，都通过古书画修复技术与装裱工艺进行了复原，我们如今在博物馆得以一睹这些珍贵艺术品的风采。

文 化財の保護についての理論と技術が成熟の度を増す今日、「書画表装」は先に述べた書画の作品を加工してさまざまな形式のものにする伝統工芸を指すだけでなく、修復の概念も次第に拡大し、独立してきている。文化財保護の基本原則である「元の状態を変えない」という考えに基づいて、現在では未表装で損傷のある書画の文化財は、一般に修復するだけにとどめる。表装された書画の文化財に損傷が生じた場合は、修復以外に改めて表装し直す必要がある。現在では、故宫博物院、南京博物院といった全国のそれぞれの博物館は古くから伝わっていたり、考古学の発掘により得られたりした貴重な書画の作品を数え切れないほど所蔵しており、古書画の修復技術と表装工芸によって復元し、私たちはそれらの貴重な芸術品の姿を目にすることができる。



古 代关于书画修复技术的代表作有明代周嘉胄编写的《装潢志》，该书系统记载了古人关于传统书画装裱及修复技术的内容。根据记载，以立轴形式书画作品为例，按照“洗、揭、补、衬边、小托、全、式、镶、覆、上壁、下壁、安轴、上杆、贴签”的顺序详细记录了此类书画的修复与装裱工序。这门古代传统工艺与现代博物馆馆藏书画文物的修复步骤并没有很大区别，但不同的是，如今馆藏文物保护会借助科学手段对其病害情况与材料进行分析检测，以选择更加安全稳妥的材料与工具，结合古代修复技术对书画文物进行修复，从而最大限度地延长文物寿命。

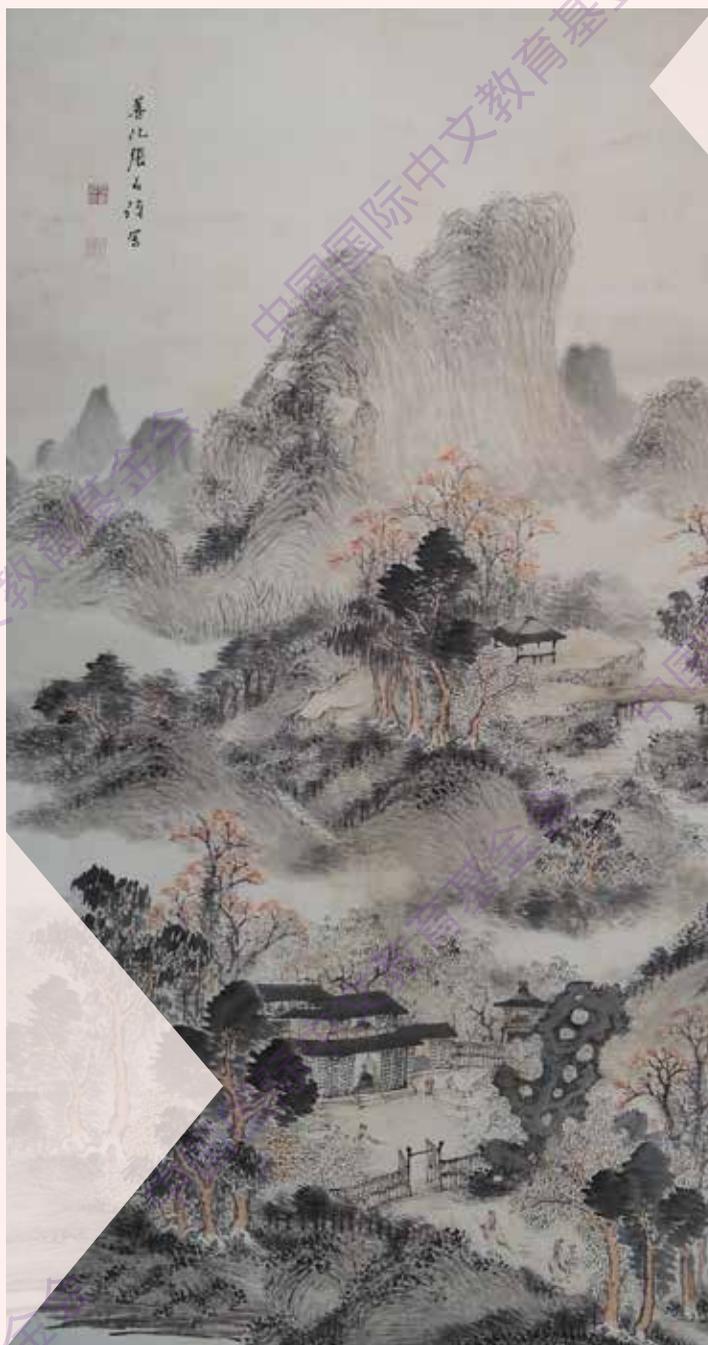
古 代の書画の修復技術についての代表的な著作は、明代の周嘉胄が書いた『裝潢志』である。この本は古人の伝統的な書画の表装と修復技術に関する内容を体系的に記載している。その記載では、掛け軸形式の書画の作品を例に取り、「洗う、剥がす、繕う、修復する、裏打ちする、色付けする、形を整える、はめ込む、覆う、上の軸を付ける、下の軸を付ける、軸をしっかりさせる、壁につす、ラベルを貼る」の順に従って、書画の修復と表装の工程を詳細に記載している。こうした古代の伝統工芸は、現代の博物館が所蔵している書画の文化財の修復手順と大きな違いはない。しかし、異なるのは現在の博物館が所蔵する文化財の保護では、科学的な手段を用いて書画の損傷の状況や材料を分析し測定していることである。それによって、より安全で確かな材料と道具を選び、古代の修復技術を結びつけて書画の文化財を修復し、文化財の寿命を最大限に伸ばしている。



本 文以国家一级博物馆荆州博物馆馆藏的晚清张名倬的山水图装裱修复为例，说明书画装裱工艺中修复技术是如何应用于书画文物保护的。

国 家一级博物馆である荆州博物館が所蔵する清末期の張名倬の山水画を例に取り、書画の表装工芸の中で、修復技術が書画の文化財の保護にどのように応用されているかを解説しよう。

表1 装裱修复路线
表1 表装修復の道筋



1 现状调查 現状調査

表2 书画文物基本信息表
表2 書画の文化財の基本情報表

文物名称 文化財の名称	种类 種類	级别 級別	时代 時代	作者 作者	材质 材質	修复前形制 修復前の形状	尺寸 大きさ
张名倬山水条幅 張名倬の山水掛け軸	绘画 絵画	三级 三級	清代 清代	张名倬 張名倬	纸本 紙	画芯 画芯（表装された作品 の絵の部分）	94×162cm

荆州博物馆馆藏张名倬山水画作品，主要病害为水渍、污渍、折痕、变色、微生物病害、动物病害等。保存状况评估结果为病害严重，无法展示，如果不进行保护修复，会使病害继续发展，严重威胁文物的寿命，急需保护修复。

荆州博物館が所蔵する張名倬の山水画には、主な損傷として水の染み、汚れ、折れ、変色、微生物による損傷、動物による損傷などがあつた。保存状況の評価結果は損傷が深刻で、展示するすべがなく、もし保護修復を施さなければ、損傷は引き続き進行し、文化財の寿命を危うくするとされ、保護修復が急がれた。

2 清洗 洗浄

清洗指去除表面污染物、酸性物质和霉斑等危害性物质，一般选用蒸馏水，但清洗前须用3%—5%比例的骨胶水对颜料或墨水进行固色，防止跑色或跑墨，否则会对文物造成不可逆的损伤。

洗浄は表面の汚染物、酸性物質、カビの斑点といった危害を与える物質を取り除くことを指す。一般に蒸留水を用いるが、洗浄の前に3%から5%の割合のにかわの水溶液を使って、顔料や墨の色を固定し、色落ちや墨落ちを防がなければならない。さもなければ文化財に取り返しつかない損傷を与える恐れがある。



图1 清洗
図1 洗浄する



图2 吸水分
図2 水分を吸
い取る

3

画芯修复
画芯修復

将清洗完成的书画作品，正面用蒸馏水和韧性好的手工纸进行“水托纸”处理，然后翻面从背面对各种病害导致的残缺部位进行修复。用于修复的纸张，为避免与书画作品使用的纸张产生异质感，需用相同材质的纸张修复，修补纸张需比残缺部位略大，并用小麦淀粉糨糊粘贴。



图3 残缺修补

图3 欠けた部分の補修

洗浄を終えた書画の作品は、表面に蒸留水と粘り強い手すきの紙で「水と紙打ち」処理を施し、裏返してさまざまな損傷を受けて欠けた部分を裏面から修復する。修復に使用する紙は、書画に使われている紙と違和感がないよう、同じ材質のものを使って修復しなければならず、補修する紙は欠けた部分より少し大きくし、小麦のでんぷんののりで貼り付ける。



图4 修补完成

图4 補修完成

4

托画芯
裏打ち紙貼り

修復を終えた書画の作品の裏面に、濃度の低い小麦のでんぷんののりを均一に塗り、画仙紙（書画用の高級な紙）を裏面に貼り、しわがなくなるまで平らにする。裏打ち紙には安徽省涇県産の棉料画仙紙を使用し、その成分は青檀の皮の繊維が40%で、稲わらの繊維が60%である。裏打ち紙を貼り終わったら、余分な水分を吸い取った後、ヤシのブラシで隙間をなくして密着させ、自然乾燥させる。

在完成修复的书画作品背面均匀涂抹低浓度的小麦淀粉糨糊，将宣纸贴在背面并刷至平整不起褶。托画芯选用安徽省泾县产棉料宣纸，成分为占比40%的青檀皮纤维和占比60%的沙田稻草纤维。将托好纸的裱件吸干多余水分后用棕刷子排实，自然干燥。



图5 刷小麦淀粉糨糊

图5 小麦のでんぷんののりを塗る



图6 托纸

图6 裏打ち紙を貼り付ける



图7 托纸后，排实

图7 裏打ち紙を貼った後、ブラシで隙間なく密着させる



图8 自然干燥

图8 自然乾燥させる

5

全色 色付け

在托好的干燥裱件正反面适当喷水，用小麦淀粉糊在背面四边涂1—2cm的宽度，贴在干燥板上重新干燥。在修复部位涂3%—5%浓度的胶矾水，干燥后使用传统颜料进行全色，使其与周围颜色相近或略浅。

裏打ち紙を貼り付けて乾燥させた後、表裏に適宜水を吹きかけ、小麦のでんぷんのりを裏面の四辺に1cmから2cmの幅で塗り、乾燥した板に貼り付けて再び乾燥させる。修復した部位には3%から5%の濃度のみょうばん水を塗り、乾燥させた後、伝統的な顔料を使って色付けし、周りの色に近づけるか、やや薄くする。

图9 全色
图9 色付け



图10 张名倬山水条幅修复前后对比图
图10 張名倬の山水画の修復前後を比較した図

6

装裱 表装

一般书画文物修复完成后，从干燥板上分离裁剪，以修复之前的装裱形式重新装裱。但是上述书画文物未经装裱，因此在完成清洗、画芯修复、托画芯、全色后需要加以装裱。书画界常说“三分画，七分裱”，经装裱后的书画不仅更具艺术性，同时也便于收藏与展示，具有一定的保护作用，因而书画装裱是书画艺术中画龙点睛的一笔。为更直观地展示书画装裱，可以利用设计软件对其进行模拟一色立轴形式与两色立轴形式装裱，如右图所示。

一般に書画の文化財の修復が完成した後は、乾燥板から外して裁断し、修復前の表装の形式で新たに表装する。しかし、先に述べた書画の文化財は表装されていないため、洗浄、画芯修復、裏打ち紙貼り、色付けが終わった後で、表装しなければならない。書画界では「絵三分、表装七分」といわれ、表装を経た書画は芸術性を備えるだけでなく、所蔵や展示がしやすくなり、一定の保護の役割を持っているため、書画の表装は書画芸術における画竜点睛の一筆だといっている。書画の表装をより直観的に展示するため、デザインソフトを使えば、一色の掛け軸形式と二色の掛け軸形式の表装をシミュレーションすることができる。それを次の図に示す。

图11 一色立轴装裱与两色立轴装裱模拟图
图11 一色の掛け軸表装と二色の掛け軸表装のシミュレーション図



具 有悠久历史的中国传统书画装裱工艺与修复技术，很难通过一篇短文就解释周全。希望读者通过本文介绍，了解作为中国非物质文化遗产的书画装裱工艺和修复技术，如今在国内外博物馆中是如何应用于书画文物保护的。这项珍贵的传统工艺被列为国家及地方非物质文化遗产，将得以继续发扬和更有利的传承。书画装裱工艺及修复技术所用的材料和工具等也将得到更多的关注，其传承的成果会更丰富、更系统。

長 い歴史を有する中国の伝統的な書画の表装工芸と修復技術を、短い文ですべて解説するのは難しい。読者の皆さんには、この文の紹介を通じて、中国の無形文化遺産としての書画の表装工芸と修復技術を理解してもらい、現在、国内外の博物館で書画の文化財の保護にどのように応用されているかを知ってもらいたい。こうした貴重な伝統工芸は国や地方の無形文化遺産に指定され、今後も継続的に発展し、よりよく传承されていこう。そして書画の表装工芸や修復技術に用いられる材料や道具などもより注目され、传承の成果はより豊かに、より体系的になっていこう。

一分耕耘，一分收获

——一位本土教师的教学自传

努力は必ず報われる

——現地で教鞭をとる一人の中国語教師の歩んできた道



作者：安以轩 安以軒

翻译：桥本和子 橋本和子

每个人都有自己的梦想，我也不例外。我出生在一个平凡的家庭，妈妈经常教育我要努力学习，争取考上大学，那样就能做自己想做的工作。望着满天繁星，我暗自发誓一定要考上大学，出人头地。功夫不负有心人，我凭着自己的努力考上了塔那那利佛大学孔子学院。当我跨入孔子学院大门的那一刻，就被这里的一切深深地吸引。每天呼吸着新鲜空气，享受着温暖的阳光，大家都在努力地学习汉语。操场上，草地边，大树下，以及教室的走廊上，到处都是学习的学生。有句话说得好，“两耳不闻窗外事，一心只读圣贤书”。在孔院学习的日子里，我彻底爱上了汉语和中国文化，梦想的种子在心里发芽，那就是“我要去中国留学”，以后做一名汉语教师。日复一日，我终于以优异的成绩毕业，并且获得去中国留学的资格。

ひとはみな自分の夢をもっている。私も例外ではない。私はごく普通の家庭に生まれ、母からは一生懸命勉強して大学に行けば、自分のやりたい仕事に就けるといつも言われて育った。夜空に輝く満天の星を見つめながら、私は、必ず

大学に合格して、一頭地を抜く存在になろうとひそかに心に誓った。努力は志ある人を裏切らないと言われるが、私は懸命に努力してアンタナナリボ大学孔子学院に合格した。孔子学院の正門をくぐった瞬間、私は目の前にあるすべてのものに深く心を奪われてしまった。毎日新鮮な空気を吸い、暖かな日差しを受けながら、みんな熱心に中国語を勉強していた。グラウンド、キャンパスの芝生の上、木の下、そして、教室の廊下など、いたる所に勉強に励む学生の姿があった。

「窓外の事には両耳を塞ぎ、ただ一心に聖賢の書を読む（世間のことには目もくれず、ひたすら勉学に打ち込む）」という言葉があるが、まさしくそのとおりの光景だった。孔子学院で学ぶうちに、私は中国語と中国文化にすっかり魅了され、心の中に夢の種が芽生えた。それは、「中国へ留学」し、将来は中国語教師になりたいという夢だ。私は来る日も来る日も地道に努力を重ね、ついに優秀な成績で卒業し、中国留学の資格を得た。



光阴似箭，转眼之间两年已过，通过不懈努力，我终于顺利获得了硕士研究生学位。毕业后，我的汉语教学生涯正式开始了，我如愿地走进了这充满梦想的世界。当我回到孔院，回到让我梦开始的美丽校园，以新的身份再次来到这里，与曾经的学生一起共事，我的心情万分激动、自豪。

光陰矢の如し、2年という歳月が瞬間に過ぎ去り、たゆまぬ努力が実って、私はついに無事修士課程を修了し学位を得た。卒業後、私の中国語教育に携わる生活が正式に始まり、かねての念願どおり私は夢に満ちあふれた世界に足を踏み入れた。私が孔子学院、そして、夢が始まった美しいキャンパスに戻ったときには、新たな身分でもう一度ここに来たわけだが、かつて自分もそうであった学生たちと仕事をともにすることになり、私はこの上ない感動を覚え、誇らしい気持ちになった。

不过，工作一段时间后，我才发觉教师的工作并不是我想象的那样美好。刚开始上课，走进教室时我的心情是紧张的。

昨天的自己还坐在大学的教室里听老师讲课，今天却要走上讲台当一名老师，对我来说，这种转变有点突然。作为新老师，刚开始我不知道该如何去处理师生间的关系。当发现学生和自己一样大的时候，我在想：“我该怎么管这些大学生呢？怎么让他们喜欢我的课呢？”我没有丰富的教学经验，只能靠自己辛苦摸索和前辈的悉心指导来给新生上课。渐渐地，我发现学生的年龄不是问题，能否让学生在课堂上学到知识才是关键。

しかし、仕事を始めてしばらく経つと、教師という仕事は私が想像していたようなバラ色に満ちたものではないことに気づいた。授業を始めたばかりの頃は、教室に入るときには緊張で胸がドキドキ高鳴った。昨日の私はまだ大学の教室で先生の講義を聴いていたのに、今日は一人の教師になって教壇に立とうとしている。私にとって、この変わりようはいささか突然すぎた。新任の教師として、着任当初は学生との関係をどう処理すべきなのかわからなかった。学生の年齢が自



分と変わらないと気づいたときには、「自分と年齢の近い大学生をどう扱ったらいいのか？彼らに授業を好きになってもらうにはどうすべきなのか？」と悩んだ。私には教師としての経験が足りないので、自力で懸命に模索したり、先輩教師の熱心な指導も受けたりしながら、新入生に授業を行うしかなかった。徐々にではあるが、学生の年齢が問題なのではなく、授業の中で私が学生に知識を授けることができるかどうか、そのことこそが重要なのだと気づいた。

不知不觉，我已经从教六年了。在这六年教学工作中，我经历了许多事情。在这段时间里，我积极参加孔院的教研活动。在学校教学督导的指导下进行集体备课，每次备课会我都仔细听、认真记、认真制作课件。为了提高自身素质、上好每一节课，我还上网查资料，看对外汉语相关的教学视频，学习别人的优点，不断调整自己的教学思路。为了让学生能直观地理解所学的知识内容，我积极准备，制作教具。在教学上，为了不断提高自己的教学水平，每次课我都会写课后反思，也为自己制定

了个人成长记录，不断认真学习他人的优秀经验。

いつの間にか、私が教職に就いてすでに6年の歳月が過ぎていた。この6年間の教師生活で、私はさまざまなことを経験した。この間、私は積極的に孔子学院の教育研究活動に参加した。学校の教育監督指導官の指導の下、みんなで一緒に授業準備を行うのだが、そのときには常に注意深く耳を傾け、真面目にメモを取り、真剣に学習教材を作成した。自分自身の資質を高め、毎回満足いく授業ができるようにするため、さらにネットで資料を探したり、外国人向け中国語教育に関する動画を視聴したりして、他人の優れた点を学んで絶えず自分の教授法に取り入れた。学んだ知識を学生たちが直観化して理解できるようにするため、私は熱心に準備作業に取り組み、教具を制作した。授業の面では、自分の教授能力を高めるため、授業が終わった後には毎回反省点を書き出したり、自分のために個人の成長ノートをつけたり、いつもひとの優れた経験を真剣に学ぶようにしている。

一分耕耘，一分收获，辛勤的劳动也得到了丰硕的成果。我在孔院组织的“精彩一课”教学竞赛中取得了好成绩，也获得了“第二届国际中文课堂教学短视频大赛”区域奖。尽管自己在汉语教学方面取得了不错的成绩，我认为这些还远远不够，有句话叫“学无止境，不断进取”。只要有提升的机会，我都愿意努力去尝试和挑战。

「努力は必ず報われる」と言われるように、こつこつと精を出して地道に働くことで豊かな実りを得ることもできた。私は孔子学院が企画した「すばらしい授業」という教育コンテストでよい成績を収め、「第二回国際中国語模擬授業ショート動画コンクール」の地区大賞も受賞した。しかし、たとえ私が中国語教育の分野でよい成績を収めたとしても、これだけではまだまだ不十分だと考えている。「学問の道に終りはない。常に前向きに新しいことに取り組むことが必要だ」と言われるが、ブラッシュアップする機会があるなら、私はいつでも頑張って挑戦したいと思っている。

谈到“挑战”，我在孔院经常会面临许多挑战，比如当主持人。我特别感谢塔那那利佛孔子学院能给我这么好的锻炼机会，让我挑战了自己，做了自己以前从来没有做过的事。我还记得第一次做主持时，非常担心自己一上台就忘记该说什么，害怕应付不了那样的场面，拿着麦克风的手不停地颤抖。后来，看到台下熟悉的面孔，我慢慢不紧张了，最后成功地主持了这个节目。那次之后我就爱上了主持节目。每次主持活动前，我都会在家里认真练习草稿，熟背于心。主持节目让我受益匪浅，不仅提高了汉语表达能力，也让我对汉语教育和中国文化有了新的认识。

「挑戦」について言及すると、孔子学院では司会を担当す

るなど、私は常に数々の挑戦に臨んだ。こんなにすばらしい鍛錬の機会を与え、私が自分に挑戦し、これまでやってこなかったことをやらせて下さったアンタナリボ大学孔子学院に、特に感謝している。初めて司会を担当したとき、舞台上上がったら何を言うべきなのか忘れてしまうのではないかと非常に心配で、そんな状況に遭遇したら対処できないのではないかと怖くなり、マイクを持つ手がしきりに震えたことを、今もまだ覚えている。その後、舞台の下にいる参加者の見慣れた顔を見てからは、だんだんと緊張もほぐれ、最終的には無事司会の任務を全うすることができた。それ以降、私

は司会が好きになった。毎回イベントの司会をするときには家で真剣に原稿を読み、しっかりと暗記した。司会をするとても勉強になるし、中国語の表現力を高めてくれるだけでなく、中国語教育や中国文化に対して新たな理解を深めることもできる。

我取得的这些成绩，离不开塔那那利佛大学孔子学院的辛苦栽培，也离不开江西师范大学老师的指导帮助。在这里我特别感谢孔院给了我宝贵的教学平台和资源，也衷心感谢每一位帮助过我的老师。在未来的日子里，我会一如既往地努力，争取从各方面提高自己、超越自己。

私がこれらの成果を得ることができたのは、アンタナリボ大学孔子学院が苦勞して育て上げて下さったおかげであり、江西師範大学の先生方の熱心なご指導の賜物でもある。中でも特に貴重な教育の場やリソースを与えて下さった孔子学院にこの場を借りて感謝するとともに、これまでサポートして下さいましたすべての先生方に心からの感謝を申し上げる。今後の日々において、私はこれまで通り努力を続け、あらゆる面から自己研鑽に励み、己の限界を超えるべく精進していきたいと思っている。孔



作者：张琺竹 チュティ・ワランドリ・ビン・アフマ
光洁 ルシア・ガルシア・ディアス
翻译：小林干夫 小林幹夫

无问东西

「洋の東西は問わず、
地球は一家」

全球一家

——对话印尼和西班牙青年文化使者

——インドネシア、スペインの青年文化大使にお話を聞く



→ Tuti Walandari Bin Ahma, 汉语名张琺竹，就读于印尼哈山努丁大学文学院。2022年获“中央广播电视总台联合国汉语日青年文化使者”称号。擅长手工制作，热爱汉语诗歌和国画。她说“学习汉语，其乐无穷。”

チュティ・ワランドリ・ビン・アフマ、中国名・張琺竹（ジャンジュンジュ）は、インドネシアのハサヌディン大学文学部で学んでいます。2022年、彼女は「中国中央ラジオ・テレビジョン総局主催・国連チャイニーズデー青年文化大使」の称号を授与されました。手作りが得意で、中国語の詩や歌、中国画が大好きです。彼女は「中国語を学ぶのはとても楽しい」と言います。

→ Lucía García Díaz, 中文名光洁，出生于西班牙的托莱多市，今年17岁。2022年获“中央广播电视总台联合国中文日青年文化使者”称号，2021年获得“‘汉语桥’全球中学生中文比赛”总冠军。热爱中国书法和绘画艺术。她说：“汉语学习是一道光，照亮了我的人生。”

ルシア・ガルシア・ディアス、中国名・光潔（グワンジエ）はスペインのトレド市で生まれ、今年17歳です。2022年には、「中国中央ラジオ・テレビジョン総局主催・国連チャイニーズデー青年文化大使」の称号を授与され、2021年には、「チャイニーズブリッジ」世界中学生中国語能力コンテスト総合チャンピオンを獲得しました。彼女は中国の書道と絵画芸術が大好きで、「中国語を学ぶことは私の人生を照らす光です」と語ります。



Q1

你是从什么时候开始学习汉语的？
可以分享一下你对汉语的初印象吗？
中国語を習い始めたのはいつごろですか？中国語の第一印象を教えてください。

张珺竹：

我是上大学才开始学习汉语的，我所在的哈山努丁大学开设了汉语专业，我选择的专业就是汉语。我对汉语的初印象就是汉语很独特，因为汉语不仅有拼音、声调，还有语法，这和印尼语有着很大的区别。

チュティ・ワランダリ・ビン・アフマ：

私が中国語を学び始めたのは大学生になってからで、私が在籍していたハサヌディン大学では中国語専攻コースが開設されましたので、中国語を専攻しました。中国語に対する私の第一印象は、非常にユニークな言語だということです。なぜなら、中国語にはピンインや声調があるだけでなく、文法もインドネシア語とは大きく異なっていたからです。

光洁：

我是从13岁开始学习汉语的，到今年是第五年了。最初的时候觉得汉语很有趣。我的同学们有学习德语、法语的，但是我选择了汉语，因为汉语是被大家公认的世界上最难学习的语言。最初的时候，我只是觉得汉语很有意思，可是后来我真正爱上了汉语，它让我了解到了博大精深的中国文化。

ルシア・ガルシア・ディアス：

私は13歳から中国語を習い始め、今年で5年目になります。最初は中国語がとても面白いと思いました。クラスメートの何人かはドイツ語とフランス語を学びましたが、中国語は世界で最も習得が難しい言語として認識されているため、私はあえて中国語を選択しました。最初は中国語がとても面白いとだけ感じていましたが、その後、中国語が大好きになり、広大で深い中国文化を理解することができました。

Q2

在你们国家的语言中，如何诠释“文化”一词？
あなたの国の言葉で「文化」という言葉はどのように解釈されていますか？

张珺竹：

在印尼语中，“文化”这个词是 budaya，很明显，这源于佛教 buddhayah 一词。这反映了印尼自古以来就是多元和开放的。印尼文化不仅包括土著文化，也包括受中国、阿拉伯国家、印度和欧洲等文化影响而产生的文化。此外，印尼是一个多民族的国家。全国有300多个民族，700多种地方语言。我们遵循着“多元种族、多元宗教和多元文化”的原则，平等尊重每一种文化。

チュティ・ワランダリ・ビン・アフマ：

インドネシア語で「文化」という言葉は「ブダヤ budaya」です。これは明らかに仏教の「buddhayah」という言葉に由来しています。これは、インドネシアが古くから多元的で且つ開放的であったことを反映しています。インドネシアの文化には、土着文化だけでなく、中国、アラビア、インド、ヨーロッパの影響を受けた文化も含まれます。また、インドネシアは多民族国家です。この国には300を超える民族グループと700を超える地域言語があります。私たちは「多民族、多宗教、多文化」の原則に従い、すべての文化を平等に尊重しています。

光洁：

“文化”在拉丁文中最初的意思是指精神修养。我听过一句很有意思的话，说中国人不只是生活在中国这个国家，更重要的是，他们生活在自己的文化里。就像我的老师们，还有中国的朋友们，虽然生活在西班牙，但是他们的言行举止都透着一股浓浓的中国味儿。这也是我喜欢生活在孔子学院的一个很重要的原因，我爱这里的中国文化氛围。

ルシア・ガルシア・ディアス：

「カルチャー・Culture」とは、ラテン語で元々、「精神修養」を意味します。中国人は単に中国に住んでいる人々というだけでなく、より重要なことは、彼らは自分たちの文化の中に生きているという事です。私の先生や中国人の友達のように、彼らはスペインに住んでいるにも関わらず、彼らの言動には「中国色」が色濃く反映しています。これは、私が孔子学院で過ごす時間が気に入っている主な理由でもあり、ここにある中国文化の雰囲気が大好きです。

Q3

你身边的家人 / 朋友 / 学校的同学，如何看待你学习汉语？

あなたの家族、友人、学校の友達は、あなたが中国語を勉強していることをどう思っていますか？

张琺竹：

我是汉语专业的学生，我的家人和朋友都非常支持我学习汉语，希望我有一天能够到中国去。他们都是我学习汉语的动力。每当我学习遇到困难，变得不自信的时候，他们都会鼓励我。

チュティ・ワランダリ・ビン・アフマ：

私は中国語を専攻している学生で、私の家族や友人は私の中国語学習をととても支持してくれていますので、いつか中国に行けると願っています。これらはすべて、中国語を学ぶ上で私の力となっています。勉強で困難にぶつかり自信が持てなくなるたびに、彼らは私を励ましてくれました。

光浩：

在西班牙有句俗语，如果你听不懂对方的意思，就会说，“你在跟我说汉语吗？”汉语在不少西班牙人的认知里，真的非常难学难懂。在我最初学汉语的时候，大家都觉得很惊讶。但是当我拿到了“汉语桥”比赛的冠军后，他们知道了只要花功夫去学，一定能够说好汉语。我的朋友们现在开始羡慕我，觉得我当初的决定真的是太棒了。我也会教他们一些汉语，我身边的很多人现在也觉得汉语很有趣，也不像想象中的那么难学。

ルシア・ガルシア・ディアス：

スペインには、相手の話していることが理解できなければ、「私に中国語を話しているの？」と言うスラングがあります。中国語は多くのスペイン人にとって、習得し難く理解できない言語として認識されています。私が中国語を学び始めたばかりの頃は皆が驚いたものでした。ですが、私が「チャイニーズブリッジ」コンテストで優勝してからというもの、彼らは一生懸命勉強すれば中国語も上手に話せるようになることを知りました。友人達は、私の当初の決定が本当に正しかったと気づき、今では私をうらやましく思っています。私は彼等に中国語も少し教えますが、私の周りには中国語が面白いと思いつつ、中国語学習は思ったほど難しくないと感じた人も少なくありません。

Q4

学习汉语这些年，你有什么印象深刻的经历？

ここ数年の中国語学習で印象的だったことは何ですか？

当然是参加各种各样的汉语比赛，能够和许多和我一样的汉语学习者交流，也可以在比赛中学习到很多。这次的“国际汉语日”比赛，我以郑和为主题准备我的作品。我和我的指导老师一起查了很多资料，在这个过程中，我第一次了解到郑和在中国的一些故事。我非常喜欢汉语，因为在学习汉语的时候，我也不知不觉学习了很多中国文化。学习汉语，其乐无穷。

もちろん、さまざまな中国語のコンテストに参加したのですが、私のような多くの中国語学習者とコミュニケーションをとることができ、大会でも多くのことが学べました。この「インターナショナル・チャイニーズデー」コンテストのために、鄭和をテーマに演目を用意しました。私は指導教諭と共に多くの資料に当たりましたが、この過程で、中国の鄭和に関する話を初めて知りました。私は中国語がととても好きです。なぜなら、中国語を学ぶ中で、無意識のうちに多くの中国文化を学んだからです。中国語を学ぶのはとても楽しいです。



张琺竹

チュティ・ワランダリ
・ビン・アフマ



光洁
ルシア・ガルシア
・ディアス

印象最深的还是参加“汉语桥”的比赛，因为这个比赛非常辛苦。我要在很短的时间内去准备，我和我的老师经常累得抱头痛哭。但是现在看来，经过了半年“汉语桥”的比赛，我的汉语水平很快就从三级升到了四级，去年我又考了五级。参加比赛给了我快速成长的机会，让我学到了很多。

最も印象的だったのは、「チャイニーズブリッジ」コンクールに参加したことです。このコンクールは非常に難関です。大変短い時間内で準備をしなければならず、先生も私も疲れ果てて、頭を抱えては泣いたものです。しかし、今にして思えばチャイニーズブリッジコンクールに関わった半年の間、私の中国語はレベル3からレベル4に急上昇したのです。昨年も5級を受験しましたが、大会に参加することで急成長することができ、多くのことを学びました。

Q5

孔子学院在你的汉语学习中扮演了什么样的角色？

孔子学院はあなたの中国語学習においてどのような役割を果たしていますか？

张琯竹：

孔子学院在我们的汉语学习过程中给了我们很大的帮助。孔院一直提供丰富的汉语课程。对我来说，这些课程对我们学习汉语影响很大，在假期孔院仍然给我们提供一些夏令营课程，让我们的汉语提高得很快。老师们耐心地教我们，像朋友一样，我非常尊敬他们。

チュティ・ワランダリ・ビン・アフマ：

私たちは中国語を学ぶ過程で、孔子学院から沢山のご助力をいただきました。彼らは常に豊富な中国語カリキュラムを提供してくれました。私にとって、これらのカリキュラムは我々が中国語を学習する上で多大な効果を上げており、夏休み中にも関わらずサマーキャンプコースも設けていただきましたので、中国語を短期間で上達させることができました。先生方はまるで友人の様に辛抱強く教えてくれましたので、私は孔子学院の先生たちをととても尊敬しています。

光洁：

孔子学院就是我的家，也是我的整个童年。在其他的小朋友去公园玩的时候，我就在孔院上课，跟老师学汉语、读古诗、听中国的音乐。这渐渐地把我的整个生活氛围和步调全部都改变了。孔子学院是我的第二个家。我和孔子学院的院长、老师们之间有太多的回忆，那么温馨，那么美好，让我有了不一样的童年。

ルシア・ガルシア・ディアス：

孔子学院はいわば、私の家であり、子供時代の全てです。他の子供たちが公園で遊んでいる時、私は孔子学院で先生の下で中国語を学び、古代の詩を読み、中国の音楽を聴いていました。これにより、生活を包む雰囲気やリズムが徐々に浸透し、私の全てが生まれ変わりました。孔子学院は私の第二の家です。孔子学院の院長さんや先生方との思い出は語り尽くせないほどあり、あれだけ温かく素晴らしい時間の中で、他とは異なる子供時代を過ごすことができました。

Q6

你最想推荐给青年朋友的中华传统文化是什么？

若者に最も勧めたい中国の伝統文化は何ですか？

张珺竹：

中国有很多有趣的文化。我最喜欢水墨画。水墨画是中国传统绘画的一种形式，可以画在绢、宣纸等材料上，题材包括人物、山水、花鸟等。中国画独特的材料、写实写意等技法、艺术创作的形式和内容，都反映了中国人对自然、社会的感受和与之相关的对政治、哲学的认知。

チュティ・ワランダリ・ビン・アフマ：

中国には興味深い文化がたくさんあります。中でも私は水墨画が一番好きです。水墨画は伝統的な中国絵画の一形態で、絹や画仙紙等の素材に描くことができ、題材には人物、風景、花、鳥などが含まれます。中国絵画の独特の素材、写実、写意などの技法、芸術作品の形式と内容はすべて、自然と社会に対する中国人の感情、および政治と哲学に対する中国人の認識を反映しています。

光洁：

我非常喜欢中国的绘画和书法。无论有多累，只要取出笔墨纸砚，开始写字画画，我都能迅速平静下来。另外，我觉得专心做一件事情并把它做好，也是对性格的磨炼。比如最开始的时候我画不好牡丹花，但是经过了很多练习之后，我画得越来越好了，这也让我的性格越来越沉稳。

ルシア・ガルシア・ディアス：

私は中国の絵画と書道がとても好きです。どんなに疲れていても、筆と墨、紙と硯を取り出して字を書き、絵を描き始めれば、すぐに落ち着くことができます。また、一つのことに集中してそれを最後まできちんとやり遂げることで、人格を鍛える事ができたと思います。たとえば、最初は牡丹がうまく描けなかったのですが、練習を重ねるうちにどんどん上手に描けるようになり、性格も次第に落ち着いてきました。

Q7

如果将来有机会去中国，你最想去的地方 / 最想完成的事情是什么？

将来、中国に行く機会があれば、最も行きたい場所ややりたいことは何ですか？

张珺竹：

如果有机会我想去中国读硕士，无论哪个城市都可以。因为在中国学习汉语一定会有不同的体验，尤其是在提高我们的语言技能方面，一定会更有帮助。如果可以，我想去看看中国的名胜古迹和山川大河，享受自然之美，近距离体验中国文化。

チュティ・ワランダリ・ビン・アフマ：

機会があれば、中国に行って修士号を取得したいです。どの都市でも構いません。本場中国で中国語を学ぶことは、今までとは異なる経験をすることになるので、特に私たちの語学力を向上させる上でより助けになるでしょう。できれば、中国の名所旧跡や山や川、大河を訪れ、自然の美しさを楽しみ、中国の文化を身近に体験したいです。

光洁：

小时候我最想去中国，想得比较简单，想去旅游，看北上广这些大城市。但是随着我对中国文化的进一步了解，我更喜欢中国的传统建筑与民俗。现在我更想去苏杭看江南的园林，去云南看苍山洱海，去四川见见可爱的大熊猫，去拉萨的大昭寺晒太阳，我想去感受真实的中国。我期待着，能够早日去中国。

ルシア・ガルシア・ディアス：

幼い頃、一番行きたかったのは中国でしたが、当時は比較的単純に考えていました。旅行で北京、上海、広州などの大都市をみたいと思っていました。けれど、中国文化への理解が深まるにつれて、中国の伝統的な建築物や民俗習慣がより一層好きになりました。今では更に蘇州と杭州に行って江南の庭園、雲南に行って蒼山と洱海もみに行きたいです。四川でかわいいジャイアントパンダもみたいですし、ラサのジョカン寺に行って日光浴をして、本当の中国を体験したいのです。できるだけ早く中国に行けることを楽しみにしています。孔

《孔子学院》征稿函

《孔子学院》由中国国际中文教育基金会主办、上海外国语大学协办，拥有标准国际连续出版物刊号（ISSN）和中国国内统一刊号（CN），该刊为双月刊，有中英、中法、中西、中俄、中德、中意、中葡、中阿、中泰、中韩、中日11个中外文对照版，面向全球发行。

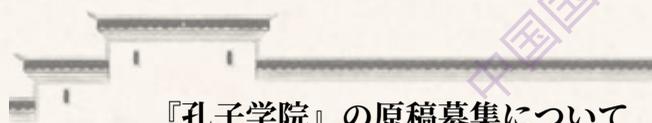
《孔子学院》设有“文化视窗”“汉语学习”“当代中国”和“孔院链接”栏目。“文化视窗”着重介绍中国不同地区风俗民情、特色文化和非遗（物质）文化传承等；“当代中国”旨在展示当地的最新发展，呈现中国百姓的日常生活、流行与时尚。2023年拟依序介绍安徽省、江西省、贵州省、青海省、黑龙江省和广东省。“汉语学习”关注国际中文教与学的方方面面；“孔院链接”以汉语教师和学习者为主，聆听他们汉语教与学的故事。

投稿须知：

1. 文稿完整，包括题目、正文、署名和作者简介及联系方式。
2. 文字简洁，突出叙事性、趣味性和文化性，字数以800—2500为宜，中文、外文、中外文对照皆可。
3. 欢迎提供配图和图片说明，图片大小不低于3MB，分辨率为300dpi以上，单独以附件形式发送。
4. 咨询、投稿邮箱：ci.journal@ci.cn。编辑部将在收稿10个工作日内予以回复。

免责声明：投稿稿件要求原创、首发，稿件中不得含有任何违法内容，不得侵犯他人名誉权、隐私权、商业秘密等合法权益，否则引发的法律责任由投稿人承担。一经投稿，即视为作者同意将作品多语种的修改权、复制权、汇编权、翻译权、信息网络传播权及电子数码产品版权等著作权（署名权、保护作品完整权除外）在全球范围内转让给《孔子学院》编辑部。

《孔子学院》编辑部



『孔子学院』の原稿募集について

『孔子学院』は、中国国際中文教育基金会在上海外国语大学の協力を得て発行する刊行物であり、国際標準逐次刊行物番号（ISSN）と中国国内統一刊行物番号（CN）を持ち、グローバルに展開されています。隔月刊行の本誌には、中国語と英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、アラビア語、タイ語、韓国語および日本語などの11カ国語との対照版があります。

『孔子学院』は、主に海外の中国語学習者、中国語教師、及び国内の中国語教師、さらに中国の今を知りたい世界各国の読者を対象としています。創刊の趣旨は、国際的な中国語教育をサポートし、中国語の知識を教え、中国の習慣や民俗文化を紹介することです。また、本誌は中国語の教育と学習、中国人の日常生活、流行や社会の発展に焦点を当て、海外の中国語学習者が中国語を学び、現代中国を理解するというニーズに応え、それを満たそうとしています。

本誌には主に、「文化ウィンドウ」「中国語学習」「当代中国」「孔院リンク」という4つのコラムがあります。

「文化ウィンドウ」では、中国の各省に焦点を当て、それぞれの特色ある文化や無形文化遺産などを重点的に紹介します。「当代中国」では、中国各地の最新の発展状況を紹介することを目的として、主に事実や写真などを通して、現代中国の一般市民の暮らしを呈します。2023年は、安徽省、江西省、貴州省、青海省、黒龍江省、広東省の順で取り上げて紹介する予定です。

「中国語学習」では、授業実践の事例、授業デザイン、授業中のちょっとしたコツや中国語の学習に関するエピソードなど、国際的中国語教育のあらゆる側面に焦点を当てます。「孔院リンク」では、中国語教師や学習者の気持ちに寄り添い、中国語の教育や学習におけるエピソード、および中国語が彼らにもたらした変化を伝えます。

執筆要領

1. 原稿は、タイトル、本文、署名、著者プロフィールと連絡先を含む完全なものであること。
2. 明確なテーマと構成を持ち、簡潔な文章で物語性、楽しさ、文化性を際立たせること。
3. 字数は800～2500字が望ましい。中国語、外国語、中国語/外国語対照のいずれも可。
4. 説明文付きの写真提供が歓迎。写真はサイズ3MB以上、解像度300dpi以上のもので、添付ファイルとして送ること。
5. お問い合わせ、投稿用メールアドレス：ci.journal@ci.cn。編集委員会は、原稿受領後10営業日以内に、投稿者に返信して原稿の受領を確認します。

免責事項：投稿はオリジナルで初公開のものに限る。また、違法な内容を含んでいたり、他人の名誉権、プライバシー、商業秘密などの法的権利や利益を侵害していたりしてはならない。さもなければ、それらに起因する法的責任は投稿者が負うことになる。原稿が提出された時点で、著者は『孔子学院』編集委員会に、修正、複製、編集、翻訳、ネットワーク上での普及、電子デジタル製品の著作権（氏名表示権と作品の完全性を保護する権利を除く）を含む、複数言語による作品の著作権を譲渡したものとみなされる。

『孔子学院』編集委員会

敬请关注
孔子学院媒体矩阵！

12种语言说
“你好”



孔子学院
抖音号



孔子学院
微信公众号



孔子学院
微博



孔子学院
全球网站 ci.cn



孔院人的云上家园

RMB 16 / JPY 550

ISSN 1674-9693



9 771674 969238

03 >